



2018年度

教師海外研修報告書

研修国：ブラジル連邦共和国



タンケ村日系人農園にて [撮影：2018年度教師海外研修同行者]

独立行政法人国際協力機構
横浜センター（JICA横浜）

目 次

教師海外研修について

教師海外研修とは	4
教師海外研修の流れ	5
海外研修国の概要	6
参加者一覧	7
海外研修日程	8
参加者の訪問先所感	9

実践授業報告

●小学校(4名)

青山 仁美 (横浜市立並木第一小学校)

「からだをうごかして いってみよう！」

石井 宏明 (川崎市立子母口小学校)

「世界の国からこんにちは ～「あたりまえ」ってなんだろう?～」

中山 史也 (中央市立田富南小学校)

「いろんな考えにふれよう」

山本 エメリン (横浜市教育委員会国際教育課)

「カルチャーショック体験！」

●中学校(2名)

江本 敦子 (横浜市立潮田中学校)

「ジェスチャーゲームで他者理解と自己理解」

齋藤 若菜 (横浜市立南高等学校附属中学校)

「表彰式に参加しよう! ～“当たり前”ってなんだろう～」

●高校(1名)

櫻木 萌季 (神奈川県立横須賀明光高等学校)

「多文化共生」

※この報告書に掲載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICA を代表するものではありません。
※参加者の所属等は、2018 年度のものであります。

教師海外研修とは

1. 教師海外研修の目的

本研修は、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる神奈川県・山梨県の教員や教育委員会指導主事等の方々を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場等での授業実践等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的としています。研修参加後は、JICA 国内機関と協力し、教育現場で開発教育を推進する中核となるような人材となってもらうことを期待しています。

2. 研修概要

本研修は、開発途上国の社会・教育事情や開発途上国で行われている様々な国際協力活動の現場視察（海外研修）と、海外研修の前後に行う国内研修（事前／事後）の2つのプログラムから成っています。国内研修（事前）では、海外研修への準備としてワークショップ体験、素材収集の方法・教材研究等を学びます。国内研修（事後）では、他の研修参加者と協働して開発教育の教材づくりに挑戦します。その成果（教材）を駆使しての実践授業を通じて、同じ関心をもつ多くの教員の方々と貴重な経験と成果を共有することを目指します。全ての研修のしめくくりとして、実践授業の報告発表会を実施します。

3. 応募資格

神奈川県と山梨県の学校現場で国際理解教育・開発教育に取り組んでいる、または関心を持ち、国内・海外の研修および報告会の全日程に参加可能な教員等で、所属長の推薦が得られる方。

4. 海外研修期間

2018年7月29日（日）～8月11日（土）

研修の流れ

国内事前研修

第1回～第3回 @ JICA 横浜

【日程】 事前①：2018年6月23日（土）
事前②：2018年6月30日（土） ※開発教育教員セミナー（基礎編）
事前③：2018年7月14日（土）～7月15日（日）

【内容】 ・本研修概要・派遣国・視察先の説明
・海外研修準備（渡航手続き、健康・安全管理、素材収集の方法）
・前回参加教員との交流
・開発教育のワークショップの体験
・教材研究の方法

海外研修 @ブラジル連邦共和国

【日程】 2018年7月29日（日）～8月11日（土）
【内容】 開発途上国の現場体験、教材研究のための素材収集

国内事後研修

第1回 @ JICA 横浜 【日程】 2018年8月25日（土）
【内容】 ・研修先で得た素材の整理
・教材・授業案・ワークショップの作成

第2回 @ JICA 横浜 【日程】 2018年9月15日（土）
【内容】 教材・授業案・ワークショップの作成

第3回 @ 各所属先 【日程】 2018年9月～12月
【内容】 各所属先における授業実践等

第4回 @ JICA 横浜 【日程】 2019年1月12日（土）～2019年1月13日（日）
※開発教育教員セミナー（応用編）
【内容】 ・開発教育のワークショップの体験
・参考事例発表
・教材研究の方法

最終報告会 @ JICA 横浜 【日程】 2019年2月2日（土）よこはま国際フォーラム2019
【内容】 実践授業の報告発表会

海外研修国の概要



ブラジル連邦共和国 (Federative Republic of Brazil)

- 首都**：ブラジリア
- 面積**：851.2万平方キロメートル（日本の22.5倍）
- 人口**：約2億784万人（世銀、2015年）
- 民族**：欧州系（約48%）、アフリカ系（約8%）、アジア系（約1.1%）、混血（約43%）
- 言語**：ポルトガル語
- 宗教**：カトリック約65%、プロテスタント約22%、無宗教8%
（ブラジル地理統計院、2010年）
- 政体**：連邦共和制（大統領制）
- 主要産業**：製造業、鉱業（鉄鉱石他）、農牧業（砂糖、オレンジ、コーヒー、大豆他）
- GNI**：1兆7,747億米ドル（2015年：世銀）
- 一人当たりのGDP(名目)**：8,538米ドル（2015年：世銀）
- 経済成長率**：2.3%（2013年）、0.1%（2014年）、-3.8%（2015年）、-3.6%（2016年）
（実質GDP、ブラジル地理統計院）
- 通貨**：リアル
- 日本の援助実績**：(1)有償資金協力 499.96億円（2011年度、E/Nベース）
 (2)無償資金協力 0.83億円（2014年度、E/Nベース）
 (3)技術協力 18.18億円（2014年度、JICAベース）
- 主要援助国(2013年：支出総額、OECD/DAC)**
：ノルウェー(678.70百万ドル)
ドイツ(263.02百万ドル)
フランス(122.74百万ドル)
日本(96.03百万ドル)
英国(29.71百万ドル)
- 在留邦人数**：53,400名（2016年10月現在）
（長期滞在者：3,895人、永住者：49,505人）（日系人総数推定 約190万人）
- 在日ブラジル人数**：約18万1千人（2016年12月在留外国人統計）

（外務省ホームページより）

参加者一覧

No.	氏名	参加形態	学校名	学年 / 担当教科
1	青山 仁美	参加者	横浜市立並木第一小学校	1年
2	石井 宏明	参加者	川崎市立 ^{しほくち} 母口小学校	6年
3	江本 敦子	参加者	横浜市立潮田中学校	2年 / 英語
4	齋藤 若菜	参加者	横浜市立南高等学校附属中学校	中学1年・3年 / 国語
5	櫻木 萌季	参加者	神奈川県立横須賀明光高等学校	1年 / 地理歴史
6	中山 史也	参加者	中央市立 ^{たのみみ} 田富南小学校	6年
7	山本 エメリン	参加者	横浜市教育委員会国際教育課	国際理解
8	中野 貴之	同行者	JICA横浜	
9	福田 訓久	同行者	株式会社メディア総合研究所	



タンケ村日系人農園にて [撮影：2018年度教師海外研修同行者]

海外研修日程

日時	行程	宿泊地
7/29 日	午前 羽田空港発	機内泊
	午後 サンパウログアルーリョス空港着	
7/30 月	午前 サンパウロ出張所で安全・事業ブリーフィング リベルダーヂ散策	サンパウロ
	午後 【ボランティア交流】サンパウロ市内 活動ボランティアの活動説明と意見交換会 ふりかえり会 サンパウロ出張所、帰国研修員との交流	サンパウロ
7/31 火	午前 奄美事業所	サンパウロ
	午後 日本移民資料館見学 ふりかえり会	サンパウロ
8/1 水	午前 【草の根技協】PIPA 日伯病院、SBC病院訪問	サンパウロ
	午後 【ボランティア：高齢者介護】サンパウロ市内活動高齢者支援NSV ふりかえり会	サンパウロ
8/2 木	午前 【草の根技協】カサパーバ公立小学校3年生の環境野外授業視察	サンパウロ
	午後 【草の根技協】LFC- Casa de Cirilo - Caçapava ふりかえり会	サンパウロ
8/3 金	午前 【ボランティア：現職教員】アルモニア教育文化協会見学	サンパウロ
	午後 中間ふりかえり会	サンパウロ
8/4 土	午前 サンパウロからマナウスへ移動	サンパウロ
	午後 【技術協力(科学技術)】INPA(国立アマゾン研究所)フィールドミュージアム事業視察、 INPA内 森林散策 西部アマゾン日伯協会訪問 ふりかえり会	マナウス
8/5 日	午後 アマゾン河視察 ふりかえり会	マナウス
8/6 月	午前 【ボランティア：現職教員】Josephina de Mello校訪問	サンパウロ
	午後 マナウスからサンパウロへ移動 ふりかえり会	サンパウロ
8/7 火	午前 【技術協力】地域警察活動(ロータリー交番) サンパウロ市営市場視察	サンパウロ
	午後 アチバイア市へ移動 【ボランティア：ソフトボール】アチバイア日伯文化体育協会 ソフトボール活動視察 日本語学校授業視察 ふりかえり会	サンパウロ
8/8 水	午前 現地私立高校FAAT訪問・交流	サンパウロ
	午後 日系人家族との交流、生活・農場視察等 昼：パークゴルフ会場で現地の日系人との懇親会 日系人家族との交流、生活・農場視察等 夕方～ホームステイ	アチバイア
8/9 木	午前 サンパウロへ移動	アチバイア (ホームステイ)
	午後 サンパウロ出張所で研修報告会(ブラジリアとテレビ会議) ふりかえり会 空港へ移動	サンパウロ
8/10 金	午前 サンパウログアルーリョス空港発	機内泊
8/11 土	午後 成田空港着	

参加者の訪問先所感

1日目：7月29日(日)

青山仁美

羽田空港発(0:30)、ドバイ経由でサンパウロ到着(15:55)後、ホテルにチェックイン

台風の影響も心配されたが、飛行機は無事に羽田空港を出発した。ドバイを経由し、夜にサンパウロに到着をした。滞在するニッケイパレスホテルの日本食レストランで、焼きそばや親子丼、かつ丼等を注文した。出てきた料理は、見た目も味付けも日本で食べる日本食から、だいぶ変化していて驚いた。日本食を食べながら異国に来たことを感じる不思議な体験。約30時間の長い移動から得た気づきをふりかえり、ブラジルでの最初の日を楽しんだ。



かつ丼!?

2日目：7月30日(月)

山本エメリン

① サンパウロ出張所において安全・事業ブリーフィング

ブラジルで行われている様々なプロジェクトを連携ご紹介があった。その後、安全対策について話を聞いたり、実際に強盗にあった場合の行動などを確認した。

② リベルダーヂ散策

リベルダーヂ地区に入ると日本にいる気分になった。店員たちはほとんど日本人や日系人の方で、言語の困り感を感じる事がなかった。ホテルがリベルダーヂ地区にあるため、日本食を食べる機会もありお腹も満足!

③ ボランティアとの交流

ブラジルの学校で JICA ボランティアとして日本語を教えている方の話を聞いた。ブラジルと日本の学校の雰囲気やルール等が想像していた以上に違い、慣れるまで時間がかかったとおっしゃっていた。

④ 元 JICA 研修員との懇親会

日本に研修に行った元 JICA 研修員の日系人の方々から、ブラジルで様々なビジネスをしている話などを聞くことができた。自分の国ではないところで勇気を持って、やりたいことをすることは難しいことだが、文化や言語などの違いを活かしてビジネスをしている姿に鼓舞された。



安全対策：襲われた時の練習…



ボランティア活動について熱心に聞いています

① サンパウロ日伯援護協会 社会活動部 奄美事業所 訪問

放課後学童のような場所。比較的貧困層の子どもたちが来ている地域だったが、好奇心旺盛で人懐っこい子どもたちからは短い時間の中でその境遇は窺い知ることはできなかった。二部制、三部制をとるブラジル公教育において、こういった居場所の必要性を感じた。公立校と私立校の格差の問題が気になった。



子どもたちと折り紙で交流

② 日本移民資料館 見学

JICA 横浜の資料館とはまた違った視点で、日本人移民の人たちの苦労や困難の話を聞くことができた。同行メンバーがこの資料館のあり方や、歴史問題に懐疑的だったのが印象的。



再現された移住者たちの住居にて

① 草の根技術協力 PIPA 日伯病院 訪問

草の根技術協力による、自閉症をもって生まれた子どもたちとその家族の支援についての説明を受け、施設見学を行った。“多文化共生”というキーワードを考え深めていくにあたり、人種や国籍のくくりにとどまらない、大切にしていけるべきマイノリティへの支援の存在に気づくことができた。



病院内に鯉のぼりが

② 高齢者介護施設あけぼのホーム 訪問

SBC 病院とあけぼのホームでは、ブラジルの高齢化問題に関する説明を受け、日本社会との共通する点を考えることもできた。日本語をお話になる日系一世二世の方々と交流し、実際にお話を聞くこともでき、“移民”当時の日本人・日系人の生活や当時の苦労が鮮明に伝わってきた。今まで資料館等で学んできた“日本人移民”に関する知識が、お話とまっすぐに繋がった瞬間だったように感じた。



ホームの利用者にソーラン節を披露

①【草の根技術協力】

カサパーバ公立小学校環境教育野外授業 見学

「ブラジルの環境問題は何か？」という質問を職員にしたが、あやふやな解答しか得られなかった。世界で起こる地球環境問題に身近な問題として生徒にとらえさせ、危機感を持たせられるかが共通の課題である。



野外活動を見学



両国の国旗で歓迎してもらいました

②【草の根技術協】

カラー・ファビアーノ・デ・クリスト(LFC) 訪問

小学生の社会教育については日本よりもはるかに支援体制が充実していた。社会教育 LFC の職員は日本から学んだとお話されていたが、逆に私たち日本側が学ぶことの多い視察であった。

① アルモニア教育文化協会 見学

9年間の日本語指導を行い、サッカーでの交流や文化交流を積極的に行っている場所だった。アルモニア学園の先生方の話で印象的だったのは、『言語を使って日本文化を伝えている』ということ。学校全体の70%が非日系人という中で、日本の価値観や尊敬の心を大切にしながら教育を行っていた。ブラジルの子どもたちは掃除をしないことがほとんどだが、アルモニア学園では掃除をする習慣を身につけさせ、社会の模範となるよう指導もしていた。

『文化を変えることは難しい』とも先生方は話していたが、大切なことを伝え続けようとする姿勢は私たちにもできること。日本の教育現場に戻ってからも、ここでの学びを伝え続けていきたい。



じゃんけんゲームで交流

② 中間ふりかえり会

日本を出発してからの6日間、現地で見たと聞いたこと、そこから考えたこと感じたこと等を付箋に書いて蓄えてきた。その積み重ねを再度振り返りながら、同じ分類のものを仲間分けしてシンプルにまとめた。そこからワークショップで使っていけるであろうテーマや題材を全体で検討した。

また、同行していただいている中野さん・福田さんよりいくつかのワークショップを紹介していただき、自身の引き出しを増やすことができた。



ワークショップ案を作成中

① 技術協力 INPA(国立アマゾン研究所) フィールドミュージアム事業 視察

マナウスへ移動して、INPA、国立アマゾン研究所を訪問。その後、サーレス移住地にて盆踊り大会にも参加した。これまで、人々の共生という視点での学びが多かったが、自然との共生という視点で学ぶことができた。

生物多様性がなければ環境の変化に対応できないといった自然との共存の考えが、多文化共生にも生かせることを学び、環境教育とも関連して多文化共生の考えを伝えられるのではといった気づきを得ることができた。



保護されたマナティーとご対面

② 西部アマゾン地区盆踊り大会 訪問

盆踊り大会では、マナウスでの日系社会のつながりを肌で感じる事ができた。非日系の参加者が多い反面、周りには参加したくても少し参加しづらい貧困層の人も見受けられ、マイノリティとマジョリティの逆転が見られた瞬間だった。



500人以上が参加した盆踊り大会

アマゾン河

「アマゾン河は大きい。」と、聞いてはいたが、実際に目の当たりにして、その大きさに圧倒された。クルーズでアマゾン河を巡る。岸部が見えるが、実はそれは、アマゾン河の中にある島で、見えている陸地のその先には、また大きな水の流れが広がっているのだという。島国の自然と大陸の自然の違い、多様性を肌で感じ、その大切さについて考えることができた。午後は、ピラニア釣りを体験した。簡単には釣れなかったが、1匹釣り上げることができた。子どもたちに楽しいお土産話ができそうだ。



小さなボートに乗り換えて支流へ



アマゾン河近くの市場には民芸品がたくさん

Josephina de Mello 校 訪問

情操教育や日本語教育に力を入れている私立学校を訪問。創始者が日系人の方であり、40名ほどであった学校が、今では200人近くまで子供が在籍しており校長先生もブラジル人であると知り、驚いた。日本企業が多く進出している地域のため日本語を使う必要性が高いと思っていたが、予想とは違っていた…

そのため、教員は日本語へのモチベーションを上げる様々な手立てを行っているらしい。

また、現地の教員や校長先生との対談で、「言語ができることで文化を受け入れることができる」という言葉を聞いた。話すことができなくとも、少しでも言語に触れることで異文化に近づくことができたり、マイノリティ側が文化や価値観をマジョリティ側に伝えるための「言語支援」の大切さを学ぶことができた。

JICA ボランティアの方も職場での言語や働き方に苦労しているといった話も聞くことができ、JICA ボランティアの活動についてもイメージすることができた。



子どもたちとグーチョキパーで交流



子どもたちと一緒にソーラン節

① [技術協力] ローター交番 訪問

交番横の公園でラジオ体操に参加。遠く離れた異国の地でラジオ体操が地域に根付いているのがとても興味深かった。交番システムでの取り組みについて話を聞き、だれもが安心して生活できる環境がブラジルでは決して当たり前前のことではないと感じた。



交番前で記念撮影

② アチバイア日伯文化体育協会ソフトボールおよび野球活動、アチバイア日伯文化体育協会 視察

野球やソフトボールを通して日本の礼儀や文化を伝えようとしているボランティアや日系団体の方の話を聞き、スポーツを通してつながる日本とブラジルの可能性を感じた。日本語学校では子どもたちが楽しめるように、あれこれと教材を工夫して、日本語を教えようとしている教師たちのアイデアを学ぶことができた。



練習にも参加

① 私立 FAAT 学校 訪問

日系人が多いと聞いていたアチバイアの中にある私立学校(小学校～高校)ということで、放課後になると前日訪問した日本語学校に通学しているのだという生徒も含めて、多くの日系人生徒が在籍していた。また、日系人でなくても日本に関する興味関心は非常に高く、学校全体を通じて日本に関する教育を重視する体制が浸透している様子がうかがえた。日本語での交流において活躍した生徒に対し、拍手喝采する場面を垣間見られ、画工教育現場における多文化共生の一端に触れられたように感じる。



日本語で応対してくれた高校生と
コーヒーブレイク

② タンケ村日系人農園 見学、タンケ村日系人との交流

戦後に移民した日系一世の方々や日系二世から四世の方々のブラジル移住の経緯をうかがい、一世の方々や二世・三世の方々のブラジル・日本それぞれへの考え方の違いを改めて感じることが出来た。特に、一世の方々の日本に対する思いは強く、多文化の中で生きていることと、多文化で共生することの違いやむずかしさについて改めて考えるきっかけとなったように思う。地球の“裏側”で日本から一番遠い国だと思っていたブラジルが、ただ位置的に“反対側”で日本との心の距離は近い国だと気づけた学びの多い座談会だった。



日本人移住者の方と感動の語り合い

サンパウロ出張所にて研修報告会

テレビ会議は初めてだったので新鮮であり、緊張感があった。訪問先で学び得たことを発表して研修のふりかえりになったと同時に、今後に向けての意識をさらに高める報告会となった。私たちの食事会に何度も付き合ってくださいました JICA ブラジル事務所、サンパウロ出張所の皆様に感謝！



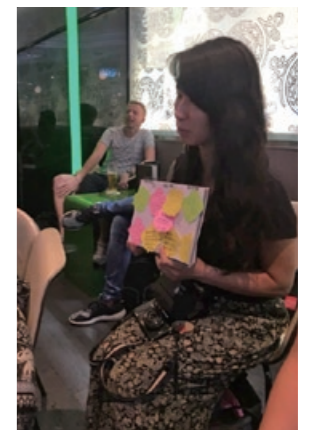
報告会。ブラジル事務所とはテレビ会議システムでつながっていた

サンパウロ発(1:25)、ドバイ経由で成田空港到着(17:35)

行きに比べて、飛行機内での時間の過ごし方にもゆとりをもてるようになった。サンパウロを離れてしまうことに寂しさを感じながらも、日本に戻ってから自分たちがすべきことを考え移動することができた。



ホテルロビーで最後の確認



帰路のドバイ空港でも
ふりかえり会

参加者

感想

石井 宏明 (いしい ひろあき)

「文化の違う人々が共に生きていく」ためには歩み寄りが大切だと思っていました。しかし、本研修を通して認識したのは「人の文化を変えるのは難しい」ことです。だからこそ、「多文化共生」に大切な第一歩は文化の違いに気づくこと。当然の前のように、自分の文化の中で「自分の当たり前=他者の当たり前」を考えてしまいます。そのことを気づけたのが何よりの学びでした。ブラジルのみなさんや JICA の方々、そしてともに学んだ仲間への感謝です。

青山 仁美 (あおやま ひとみ)

ブラジルでは、日本人の移民やその子孫、日本で学んだ経験のあるブラジルの方々など、多くの出会いがありました。日本の文化のよいところを取り入れ、まずは新しいものを創造しながら、地域社会に貢献していました。そんな日本との様々なつながりの中で、生き生きと学ぶ姿もまたの姿がとも印象的でした。これからは私も、ブラジルで学んだことを子孫もまたに伝え、新しい学びを一緒に創っていかせたいと思います。

江本 敦子 (えもと あつこ)

多くの人種、民族が一緒に暮らすブラジルでは人と違うことが当たり前であり、多文化共生という概念すら意識していないように感じました。また、地球の反対側にあるブラジルには日本とのつながりがたくさんあり、古き良き日本の文化や食べ物も広がっていました。私たちが訪問した先々で最大限の温かいおもてなしを受けることができたのは、まさに先人である日本人移住者たちのおかげだと感じました。このつながりをこれからも絶やすことなく、次へつなげていきたいです。

櫻木 萌季 (さくらぎ もとき)

国際交流をするにあたって語学力は求められます。しかし、言語以外の様々なツール(例えば、スポーツや手品など)があれば言語の不十分さを補うことができます。「最低限の語学力」と「スポーツや手品などの様々なツール」に加えて「少しの勇気」さえあれば、言葉の壁を越え外国人と打ち解けることができると自負しています。

齋藤 若菜 (さいとう わかな)

「地球の“裏側”の、日本から一番遠い国に行きます！」と宣言して向かった、ブラジル連邦共和国。訪れた先で感じたのは、日本との繋がりの温かみでした。歴史をたよれば温かみは繋がりがだけではないがもれません。それでも、現在のブラジル社会における日本文化は切っても切れない存在に感じられました。現地では本当に多くの人々と関わらせていただき、たくさんのお話をうかがいました。その中で、日系一世の方々がおっしゃっていたことを記したいと思います。「ブラジルを、地球の“裏側”なんて言わずに、地球の“反対側”だと思っていてください。」地球の反対側はあるだけ。多くの文化や考え方が混ざり合い、日本とも心の繋がりが深い国でした。

山本 エメリン (やまもと えめりん)

ブラジルと日本はつながりがとても強いため、距離は遠くても感覚的にはとても近いと感じます。笠戸丸で初めてブラジルに行かれた方々は当初、とてもご苦労されましたが、現在ブラジルの人々は日本人をとても尊敬し、“Japones Grantido”(ジャポネス・ガランチッド)と呼びます。これは、「日本人とビジネスすれば、100%成功する!」という意味です。ブラジルでは日本人をとても尊敬しています。

中山 史也 (なかやま ふみや)

今回の研修を通して、不安感や困惑を沢山の場面で抱きましたが、そんな時ブラジルの人々は私を温かく包み込んでくれました。“違う”ということを受け入れてくれる寛大さに驚きと嬉しさを覚えました。タイトルにも書いたように、ブラジルは「Ótimo(最高)」な国です。一度きりの人生、是非ブラジルへ行って、その国や人々の温かみに触れてみてはいかがでしょうか。



小学校の授業に訪問 [撮影: 2018年度教師海外研修同行者]

実践授業報告

※この報告書に掲載されている写真は、教師海外研修参加者の責任の基に提供されたものを使用しています。
※参加者の先生、児童生徒さんの原文をいかして掲載しております。表記などにばらつきがありますが、ご了承ください。

からだをうごかして いってみよう！

氏名	青山 仁美	学校名	横浜市立並木第一小学校		
担当教科	全教科	実践教科	外国語活動「横浜国際コミュニケーション活動(YICA)」		
時間数	4時間	対象学年	第1学年	人数	26人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標

- テーマ** 多様性を受け入れながらコミュニケーションを図ろうとする子の育成
- ◎**単元の目標**
 - ・国語やジェスチャーなどを用いて、相手の伝えようとしていることを理解したり自分の考えを伝えたりする活動に進んで関わろうとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
 - ・体の部分や、動きを指示する表現、相手にできるか尋ねる表現に慣れ親しむ。【外国語への慣れ親しみ】
 - ・絵本の読み聞かせや、世界のジェスチャーや習慣等の体験を通して異文化の存在に気付く。【言語や文化に対する気付き】

【2】単元の評価 規準例

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	①外国語やジェスチャーなどを用いて、相手の伝えようとしていることを理解したり自分の考えを伝えたりする活動に進んで関わろうとしている。
外国語への慣れ親しみ	②体の部分や、動きを指示する表現、相手にできるか尋ねる表現に慣れ親しんでいる。
言語や文化に対する気付き	③英語特有の音やリズム、イントネーションに触れ、日本語とは違う言語の面白さに気付いている。 ④AETの先生や外国から来た児童の体験談やコミュニケーションの体験を通して異文化の存在に気付く。

【3】単元設定の理由

✓ 児童／生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観

①児童の実態

本校は、国際教室の盛んな学校であり、ベトナム、ペルー、バングラデシュなど様々な国とつながりをもつ子どもたちが共に学校生活を送っている。秋には、運営委員会で「世界のあいさつ運動」が行われ、正門に運営委員会の児童と教職員が立ち「Buenos dias!(スペイン語)」「早上好!(中国語)」など、様々な言語で毎朝「おはよう」のあいさつを交わすなど、世界を身近に感じられる雰囲気がある。4月に入学した1年生の児童も国際教室に遊びに行ったり、「世界のあいさつ運動」で元気にあいさつをしたりして、楽しそうに過ごしている姿が見られる。外国につながる子どもたちに対して偏見を持ったり、特別に意識したりすることもなく、当たり前のこととして捉えている児童が多いように見える。

②テーマについて

○横浜市の横浜国際コミュニケーション活動 YICA とは

現行の指導要領では、外国語活動は5、6年生から(新学習指導要領では3、4年生から)となっている。そのため、ここでは横浜市の英語教育とテーマについて触れたい。

横浜市では、平成21年度から「横浜国際コミュニケーション活動(YICA)」として小学1年生から外国語活動が取り入れられている。その背景として、市内には国内外の企業や国際機関が集積することから、居住している外国人や、外国につながる児童が年々増加していることがある。

約10年間の実績を踏まえ、平成30年に策定された「横浜市小中高等学校 英語教育推進プログラム」は、「英語を活用しながら、あらゆる人々の多様性を尊重し、協働、共生できる人」を英語教育は目標にしている。

外国語活動の授業の中で、この多文化共生をテーマとしたワークショップを行うのは、この英語教育の目標に向けて、効果的だと考えたためである。このワークショップを行う1時間では、英語を使う時間は最初の「Can you do this?」のフレーズでのウォームアップのみで、ごくわずかである。しかし、このワークショップを単元の中の一つの時間に設定することで、関連性を持たせている。

○JICA 教師海外研修で作成したワークショップについて

このワークショップは、教師海外研修の参加者でもある、日系3世で横浜市教育委員会の国際理解教室講師の山本エメリン先生の実体験から生まれた。日本の学校に来て、習慣の違いから、友達や先生など、周囲の人とのコミュニケーションに苦労したということである。初対面の人にハグをすることや、学校で上履きを履かないことなど、ブラジルでの習慣を日本でしてしまったことで、友達や先生に嫌な顔をされてしまった。しかし、本人は「自分は臭いのだろうか。」と、ハグを避けられてしまったことに対して感じているし、「どうして、怒るのだろうか。怖い。」と、突然叱られてしまうことに理解ができないのである。

このような実体験から、どのようにすれば、彼女のように習慣の違いのところから来た他者に配慮してコミュニケーションを図っていけるのかということを考えさせていきたい。

○目指す児童の姿

本単元では、多様性を受け入れながらコミュニケーションを図ろうとする児童の姿を目指している。授業では、世界のジェスチャーの多様性に焦点を当て、地域によって様々なジェスチャーがあるという異文化の存在を知ること、様々な気付きを得られるようにしたい。

【4】展開計画(全4時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>からだをうごかして、いってみよう。</p> <p>○楽しく体を動かしながら、英語特有の音やリズム、イントネーションに触れる。</p>	<p>・Head, Shoulders, Knees, and Toesの曲やチャンツに合わせて体を動かす。</p> <p>・「タッチゲーム」を通して、体の部分を表す英語を聞き、体の部分を表す英語をまねて発音することに慣れ親しむ。</p>	<p>□CD ♪ Head, Shoulders, Knees, and Toes ♪</p> <p>□絵カード</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 体の部分を表す言葉を使って、友達や先生とかわることを楽しむ。 	
2	<p>「From Head to toe」のよみかぜを たのしもう。</p> <p>○「From Head to toe」の読み聞かせを聞き、動物や動きを指示する表現に慣れ親しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「From Head to toe」の絵本に出会う。 体を動かしながら、体の部分や動きを表す表現に親しむ。 日本語の絵本と対比しながら、言語の表現の違いや感じ方の違いに着目して考える。 	<input type="checkbox"/> 絵本 「From Head to toe」 「～できるかな？あたまからつまさきまで～」 (From Head to toeの日本語版)
3 本時	<p>ジェスチャー・ワールド</p> <p>○世界のジェスチャーや習慣等の体験を通して異文化の存在に気付く。</p>	<p>●ワークショップ① ジェスチャー・ワールド</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化が異なることで生まれる、コミュニケーションの相違について体験的に理解する。 <p>●ワークショップ② エメリンの初めての日本の小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国から日本の学校に来た子どもたちの見方、考え方を疑似体験する。 	<input type="checkbox"/> ジェスチャーカード <input type="checkbox"/> 絵カード <input type="checkbox"/> ストップウォッチ <input type="checkbox"/> 紙芝居 <input type="checkbox"/> 振り返りシート
4	<p>世界旅行をしてみよう！体験！世界のジェチャー！</p> <p>○体の部分の英語での表現や世界のジェスチャーに親しみ、文化の多様性に気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> マンディ先生のふるさと、アメリカに行ってみよう！ アメリカに行った担任の先生が日本のジェスチャーをして、どんなことに困ったか、寸劇を見ながら想像する。 いろいろな国のジェスチャーをやってみよう。 	<input type="checkbox"/> 世界地図 <input type="checkbox"/> 国旗 <input type="checkbox"/> 色々な国の写真 <input type="checkbox"/> 動画「Hi friends 1」 (CD-ROM)

	<ul style="list-style-type: none"> 1回目を行う。(2分間) グループを変えて、もう一度行う。2回目。(2分間) (共通にできたり、できなかったりするカードが見つからなくなる。) 2回目にゲームをしてみて、感じた違和感を共有する。 どうして、カードが合わなくなったか、担任がタネを話して、文化が異なることで生まれる、コミュニケーションの相違について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループを変えてもう一度行う。 途中で、声が出てしまったり、全体でしくみが分かってしまったりした場合は、タネやねらいを理解できるように話し、その状態でゲームを継続させ、気付いたことを話し合うようにする。 	
展開② 20分	<p>●ワークショップ② エメリンの初めての日本の小学校での一日</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙芝居を読み進めながら、エメリンの考えや気持ちを想像し、実際の場面をロールプレイで演じてみることで、外国から日本の学校に来た子どもたちの見方、考え方を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初は、日本の小学校の子どもの立場になって、物語を読む。その際に、担任がエメリンの役になって、ロールプレイをする。 その後、エメリンの気持ちの入った紙芝居を読んで、文化が異なることで、コミュニケーションの食い違いがあったことに気付く。 エメリンの立場を理解して、再度ロールプレイをする。 	紙芝居 ロールプレイカード
まとめ 5分	振り返りシートを記入。 振り返りシートに書いたことを発表する。	児童のよい気付きを共有できるようにする。	振り返りシート

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 5分	国際教室の児童との交流をふり取り、国によって言葉や文字が異なることを、ふり返る。	前回のふり取りから、児童の気づきを全体で共有する。	前回のふりかえり
展開① 15分	<p>●ワークショップ① ジェスチャー・ワールド</p> <ul style="list-style-type: none"> 別の国の「YES(はい)」「NO(いいえ)」のジェスチャーでの表し方を知り、「Can you do it?」の合図で絵カードをめくる。同じグループの友達が、共通で出来るもの、出来ないカードがあったらカード入れ(箱)に入れる。 5枚箱に入ったら、机にふせて終わった合図を出す。速く終わったチームが勝ち。 	<ul style="list-style-type: none"> 2通りの「YES(はい)」「NO(いいえ)」ジェスチャーカードを配る。 1回目は、ジェスチャーカードを見ながら行う。 グループを移動する前に、ジェスチャーカードを回収する。 	ジェスチャーカード 絵カード ストップウォッチ

授業実践の様子



前回の英語のふりかえり。絵カードを見てできることに「I can do it!」と答えます。



はい、いいえのジェスチャーでつたえます。



みんなができるカード、できないカードを分けてトレーにおいていきます。



紙芝居を聞いて、どんなことに気付いたかな。

【6】本時の振り返り

日系3世の女の子の体験に共感的に考えたり、課題意識をもてたりするかというところについては、女の子の立場に立って考えを深める子もいれば、異文化に対してコミュニケーションの難しさを感じる子もいて、子どもたちの捉え方は様々だった。だが、このワークショップを通して、子どもたちはまず「異文化の存在を知る」ということができたように思う。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

単元を通し変容した児童の態度や学習意欲

単元を通して、児童は外国など、他の地域では習慣が異なることを知ることができた。この単元を通して、外国につながる児童の話や外国人講師の日本で感じた文化の違いなどを知り、色々な視点から捉えたことで理解が深まってきたように思う。

単元を通した児童の感想の中には、「もっと世界のジェスチャーを知りたい。そうしたら、外国に行っても平気。」「外国の人と、その国のジェスチャーで関わってみたい。」といった、習慣の違いについてもっと知ったり、自分自身で体験してみたいといった声が聞かれた。

途上国・異文化への意識の変容

(授業前) ・外国について映像や写真、世界地図等で外国の様子や様々な国名などについては日々の生活の中でふれてはいるが、外国に対して、具体的なイメージはそこまで持っていない児童も多い。地域ごとによる文化の違いを知っていたり、体験的に理解していたりする児童は少ないと言える。

(授業後) ・異文化の存在を知り、習慣が異なったり、人による捉え方の違いがあったりすることを理解できたように思う。特に、外国という地域が大きく異なる場所では、習慣も大きく異なってくるということを知ることができたことがよかったと感じている児童が多いように思う。自分自身が外国に行くときには、そういう習慣の違いに配慮してコミュニケーションを図ろうという意欲をもったり、逆に外国から来た人に対しては、日本での習慣について伝えようという意欲をもつ児童の姿が見られた。

【8】自己評価

1. 苦労した点

・どれだけ児童に、日系3世の女の子の話を共感的に捉えさせられるようにするのかというところが難しかった。紙芝居だと実際の人という感覚と距離ができてしまうし、伝えにくい内容もあり状況を理解するのが難しいという課題があった。そういうところは、ロールプレイで補ったが、実際にやってみて低学年にはまだ早い内容もあると感じた。

2. 改善点

- ・ジェスチャーゲームの絵カードは、「空を飛ぶ」や「パンを食べる。」など、「できる。」「できない。」がはっきりするようなカードを用いたほうが、よりコミュニケーションの摩擦が起きやすいと感じた。
- ・低学年には、「エメリンの初めての学校」のエピソードは、ハグの話と上履きを履かないで入った話の二つが分かりやすく、ブラジル以外の国でも当てはまりやすいので扱いやすい。他のエピソードで、特に舌打ちを扱ったものは、悪いイメージの印象が強く、誤解をもったままになってしまう恐れもあるため、低学年には難しいと感じた。

3. 成果が出た点

最初のジェスチャーのゲームでは、だんだんと、「何か変だぞ。」ということに気づき「先生、『はい。』ってこうだよな?」とアイコンタクトとジェスチャーで違和感を懸命に伝えようとする児童の姿があった。

担任から「ジェスチャー・ワールド」の種明かしを聞いて、「えー!」「そういうことか。」と、驚いたり、違和感の原因に納得したりした反応が見られた。このゲームを通して、世界には、国や地域によってジェスチャーが異なることがあること。日本で使われているものも、海外では通じなかったり、別の意味に捉えられてしまったりすることなどを体験的に理解することができたようだ。

日系3世の女の子の実体験の紙芝居からは、「日本では、おぎょうぎの悪いことをしていると思った。けれど、エメリンちゃんはそういうつもりじゃないから、かわいそうだった。」「ブラジルでは、学校の中で靴(上履きではない)をはいていいなんて知らなかった。びっくりした。」といった感想をもっていた。紙芝居やロールプレイではあるが、実際の場面を思い浮かべたり、外国につながる子のある子の立場に立って気持ちを想像して考えることができたようである。

4. 備考(授業者による自由記述)

エメリンの話を扱わなくても、児童にとって身近な外国人講師が日本で感じたエピソードをもとにスキットを考えることもできる。本校の外国人講師はアメリカ出身であるが、日本に来た時に「おじぎをする。」ということは、知っていたけれども、実際にコミュニケーションの場で用いられたときには、違和感を感じたという。そういった児童にとって身近な存在である、校内の外国人講師の体験を活用して、スキットを作ることも可能であると感じた。

また、NHK for School Eテレ「u&i」の外国人児童についての動画も、ジェスチャーの違いによるコミュニケーションの違いを扱っており、こういった動画もこのワークショップの教材として活用できるように思う。

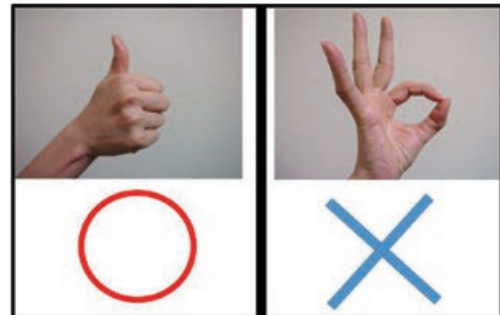
- 参考資料： ●NHK for School Eテレ「u&i」2018年度(放送日：1月9日)「仲良くなれるかな?」～外国人児童～
http://www.nhk.or.jp/tokushi/ui/?das_id=D0005190176_00000
●NHK 高校講座「英語表現I #19 Lesson10 What Is That Gesture?」
http://www.nhk.or.jp/kokokoza/radio/r2_eng1/archive/chapter019.html
●小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック 発行 文部科学省
●「横浜市小中高等学校 英語教育推進プログラム」平成30年3月 横浜市教育委員会
●「横浜市小中学校 英語教育推進プログラム」平成20年5月 横浜市教育委員会
http://www.edu.city.yokohama.jp/tr/ky/kkst/pdf/eigo_program.pdf
●「英語ノート1」発行 文部科学省 「Lesson1 世界の「こんにちは」を知ろう」「Lesson2 ジェスチャーをしよう」
●「Hi friends1」発行 文部科学省 「Lesson1 Hello!(言語・挨拶)」「Lesson2 I'm happy.(ジェスチャー、感情、様子)」
●「Let's Try 2」発行 文部科学省 「Unit1 Hello, World! 世界のいろいろな言葉であいさつをしよう」
●「We can! 1.2-新学習指導要領対応小学校外国語活動教材」発行 文部科学省 巻末資料(絵カード)

添付資料：ジェスチャーカード、絵カード、カード置き場、紙芝居

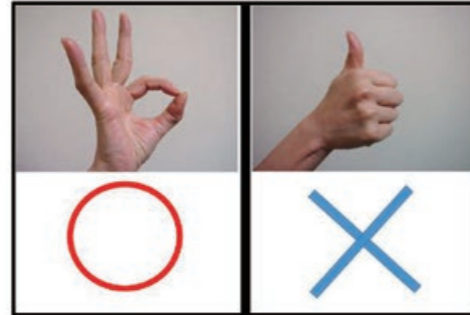
①ジェスチャーカード

グループごとに異なるジェスチャーカードを配布した。

ジェスチャーA



ジェスチャーB



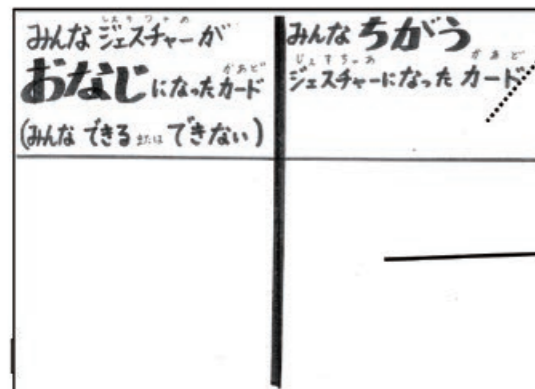
②絵カード

横浜市の外国語活動 (YICA) で用いている絵カードをそのまま用いました。反省点としては、1年生なので、「花に水をやる。」や「給食当番をする。」など、児童皆が経験した出来事のカードなど、より共通して答えられるカードがあると、より分かりやすかった。



「We can! 1,2-新学習指導要領対応小学校外国語活動教材」
発行 文部科学省 巻末資料より

③カードを置き場



ジェスチャーに注目できるように、ジェスチャーが同じになった。違ったという言葉強調したが、ここにも「(みんなできたり、できなかったりすること)」のように、ジェスチャーの意味にふれる言葉があったほうがよかった。

ここに絵カードを置いていく。

同じく教師海外研修に参加した山本エメリンさんの実際にあった話を紙芝居にした。

		クラスメイトから見たエメリン	エメリンから見た日本の学校
1		エメリンのはじめての学校	では、もう一度同じお話を読みます。今度は、エメリンから見た、日本の学校のお話をするので、エメリンの気持ちを考えながら聞いてみましょう。
2		ブラジルから、転入生が来たんだって。	私はエメリン。ブラジルから日本の学校に転入してきたよ。たくさん友達ができたらいいな。
3		ぼくは、ゆうた。私は、みか。先生に転入生の子に学校のことをいろいろ教えてあげてねってたのまれたよ。	あ、この男の子と女の子は同じクラスの子だな。やさしそうだな。
4		あ、この子がブラジルから来た転入生の子だな。「おはよう！ぼく、ゆうた。」	あいさつをしてくれた！私もあいさつをしよう。
5		「わたし、エメリン。よろしくー！」 (ゆうたの心の声) 「わ、なんだ！だきつかれそうだぞ！」	「わたし、エメリン。よろしくー！」 (ハグをしようとする。)
6		「よ、よろしくね・・・。(びっくりしたなあ。)」	あれ、離れちゃった。なぜだろう・・・。私、くさいのかな。 ※ブラジルでは、多くの人が初対面の人でもハグをする。

7		「あ！！エメリンちゃん。だめじゃないか。」	今度は、怒ってる！なんだろう？
8		「学校には靴ではいっちゃんいけなんだよ。上履きに履き替えなくっちゃ。」	どうやら、くつがいけないみたい。周りを見たら、みんな同じような靴をしている。変なの。ブラジルでは、学校に入るときに靴を履き替えたりしなかったのに。
9		エメリンちゃんが転入してきて、何日か経ちました。授業中、先生が「エメリンさん、この問題の答えは？」 「知りません。」 「何ですって、昨日授業でやったでしょう。知らないって何ですか？」	授業中先生の言っていることが分からないから、「知りません。」って言っているのに。何がいけないの。
10		中休み、みかはエメリンちゃんを遊びに誘いました。「ドッジボールをしようよ。」 「チッ！（舌打ち）いいね！」	ドッジボール！楽しそう！（チッ） あれ、よい意見だなと思ったんだけどな。だからチッしてしたのに、みんな困ったような顔をしている。どうして？
11		「え、今、チッていった？嫌な感じだなぁ。」 「エメリンちゃん、本当は一緒に遊びたく無いんですよ。無理しないでいいよ。」	みんなと仲良くなりたかったのにどうしてだろう。
12			エメリンちゃんもみんなもここにこになるにはどうすればいいのでしょうか？

世界の国からこんにちは

～「あたりまえ」ってなんだろう？～

氏名	石井 宏明	学校名	川崎市立子母口小学校
担当教科	全教科	実践教科	総合的な学習の時間
時間数	14時間	対象学年	6学年
		人数	36人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標

- 世界の国々の文化や生活を知り、自分の「あたりまえ」と違う部分を考え、共に生きる世界について課題解決の道を考え、自分にできることを取り組もうとする。
- 外国文化、習慣について認識、理解する。(B-2 多文化理解)
- 他の人の考え、行動、ものの見方や感じ方を理解し、受け入れ、尊重する。(A-2 生命・人権尊重)

【2】単元の評価 規準例

【学習方法に関すること】 課題を見つけ追及する力	①自分の生活と関わらせながら、世界の国々の文化や習慣について調べようと意欲を高め課題を見つけようとしている。 ②世界の人々と共に生きる社会について、自分が調べようとする課題設定を設定している。
【学習方法に関すること】 学習をまとめ表現する力	①情報を集め、自分たちの「あたりまえ」と比較しながら、ものの見方や考え方、行動様式の多様性について認識、理解し、課題解決への道を表現している。
【自分自身に関すること】 自分自身をふりかえる力	①自分と友達の考えや自分と世界の国々の人の考えを比較したり、関連させたりしながら自分の「あたりまえ」を考えている。 ②ものの見方や考え方、行動様式の多様性について認識、理解し、共に生きていくことについて考えを深めている。
【他者や社会との関わりに関すること】 かかわる力	①友達の発表に対して、自分なりの問題意識をもって感想や考えを述べている。

【3】単元設定の理由

✓ 児童／生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観

(1) 児童の実態

子どもたちは世界の国々への興味関心が強く、国際ニュースや教師の体験した海外の話を知っていることや自分の考えを話す姿が見られる。

3年生では韓国の文化体験を行うことによって違う国の文化や生活を知ることができた。5年生では環境問題に対して地球規模で起きている問題に対して自分たちにできることは何かを考え、それぞれの考えを異なる発表形式で身近な人々に伝えた。今までの学習を通して自分も世界の人々も根本的な部分は同じであることや自分たちが世界の一員であることを学習してきた。しかし、自分と違う習慣や食文化に対しては自然に拒否反応を起こしてしまい、受け入れられない実態にある。

社会科では「自分の考えをもち友達と学び合う子をめざして」というテーマのもと、歴史学習で

は既習事項から学んだことを生かして考えを話し合い、児童それぞれの思考を深めている。歴史学習でも同じようなことが時を追って繰り返されることや地域で起きていることが日本全土で起きていることなどを学んでいる。また、自分の考えと友だちの考えが違うのは当然だと考える児童がいる一方で、自分の考えが友達と違うことが怖いために考えを話すことができない児童も多い。学び合う上で様々な意見を話し合うことによって新たな考えが生まれることや考えがより強くなることを理解はしているものの「違っていたらどうしよう。」と一歩踏み出せない実態もある。

(2) 単元設定の理由

現在、日本でも外国に関わりのある人々は増加傾向にある。文化の違いを考えずに一方的な価値観の押しつけをすることで双方に予期せぬ問題が生じるケースもある。このことはなかなか経験できないことである一方、これからの生活にでてくるであろうことでもあると考える。

そこで、本単元では導入として役割カードを用いたワークショップを行う。そこでマジョリティのあたりまえがその社会のあたりまえであること、そしてマイノリティがそのあたりまえを目の前にしたときの気持ちを体験させたい。その上で世界の人々の文化や生活を調べることで自分たちの文化や生活を知り、世界の人々の文化や生活に違和感を持つことは自分が日本に住んでいて日本人としてのあたりまえを中心にもものを見ていることを知ってもらいたい。そこから、世界の人々に生じる課題に対して「自分に何ができるのか」という課題設定へとつなげていきたい。

また、課題を解決していく上で、社会科の歴史学習と同じように本単元で学んだ同じことが世界の人々だけでなく、小さいことであるが友達同士や身近な小さなことでも起きていることに気づき、本単元を通して「自分の身近な人々も含めた世界の人々との共生」について新たな課題がでてくるようにしていきたい。

本単元を通じて学んだことを生かして、あたりまえが人によって違うことを体験的に学習することで子どもが「人と違っていい」「自分との違いを理解してもらったり理解してくれるように説明することが大切」と感じさせていきたい。

[4] 展開計画(全14時間)

時	テーマ・ねらい 評価基準(評価方法)	主な学習活動と子どもの姿	支援・使用教材
「あたりまえ」ってなんだろう。			
1 本 時	<p>自分の生活と関わらせながら、世界の国々の文化や習慣について意欲的に調べ、課題を見つけられるようにする。</p> <p>課① 自分の生活と関わらせながら、世界の国々の文化や習慣について調べようと意欲を高め課題を見つけようとしている。 (発言・ワークシート)</p>	<p>○写真を見ながら意見交流する。 ・髪を染めてるのはすぐに注意するよ。 ・掃除をしないのは単なるわがままだ。 ・ルールをしっかり説明して掃除をさせる。</p> <p>○役割カードをもとにワークショップを行う。 ・一人だけちがう意見の人がいたのか。 ・こんな文化があったから一人だけちがったんだね。 ・最初から知っていればもう少し、優しくしたのにな。</p>	<p>○外国に関わりのある児童がいた場合や役割カードの内容を一部変えるなど十分に配慮する。</p>

世界の人々の「あたりまえ」ってどんなことだろう。			
2 3 4 5 6 7	<p>情報を集め、自分たちの「あたりまえ」と比較しながら、ものの見方や考え方、行動様式の多様性について認識、理解し、課題解決への道を表現できるようにする。</p> <p>学① 情報を集め、自分たちの「あたりまえ」と比較しながら、ものの見方や考え方、行動様式の多様性について認識、理解し、課題解決への道を表現している。 (発言)</p>	<p>○調べたい国を決める。 ・もう一度、韓国を調べたい。 ・ワールドカップで優勝したフランスを調べてみたい。 ・先生が旅行したことのあるスペインがいいな。 ・お母さんの出身国の中国がいい。</p> <p>○調べる視点について話し合い、自分の課題を設定する。 ・掃除することが疑問に思うのだから、他の学校生活もちがうそうだね。 ・あいさつの仕方もちがうんじゃないかな。 ・食べてはいけないものがあるって聞いたことがあるから食べものについて調べよう。</p> <p>○同じ国どうしのグループで調べる。</p>	<p>○世界の国のイメージをつかみやすいように本や基本的な情報を用意しておく。 ・地図帳 ・本</p> <p>○児童の課題が明確になるように、何をどんな理由で調べるのかを問い返す。 ・模造紙 ・ポストイット</p> <p>○児童が自分の「あたりまえ」と比較できるように、違いを見つけたときには自分の場合はどうだったのかを考えるように促す。 ・画用紙 ・パソコン</p>
他の人の「あたりまえ」と比べて自分の「あたりまえ」ってどんなことだろう？			
8 9	<p>自分と友達の考えや自分と世界の国々の人の考えを比較したり、関連させたりしながら自分の「あたりまえ」を考えさせる。</p> <p>学① 情報を集め、自分たちの「あたりまえ」と比較しながら、ものの見方や考え方、行動様式の多様性について認識、理解し、課題解決への道を表現している。 (発言・制作物)</p> <p>自① 自分と友達の考えや自分と世界の国々の人の考えを比較したり、関連させたりしながら自分の「あたりまえ」を考えている。 (発言・ワークシート)</p>	<p>○調べたことを発表し合い、意見交流をする。 ・自分の調べた国以外でもこんな違うことがあったんだ。 ・違う文化について友達の考えと自分の考えたことも違ってる。 ・友達が調べた国の文化が変わって感じることは自分のあたりまえはこうなんだ。</p>	<p>○児童の考えが安心して表出しやすいようにこれまでの学習の中で自分だけの習慣があったことを振り返る。 ・ワークシート</p>

世界中の人々と共に生きていくためにはどうすればいいだろう。

10 11	<p>ものの見方や考え方、行動様式の多様性について認識、理解し、共に生きていくことについて考えさせる。</p> <p>自② ものの見方や考え方、行動様式の多様性について認識、理解し、共に生きていくことについて考えを深めている。(発言・ワークシート)</p>	<p>○自分の調べた国の人々が、実際に日本に来たらどういった課題に直面するかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上履きをはかずに教室に行ってしまうそう。 ・おはしを使わないからごはんが食べられない。 ・きっと同級生だったら給食も食べられないよ。 ・言葉がその国しか使われていない言葉だから筆箱やノートの買い物もできないだろうな。 <p>○その課題に直面したとき、自分がその人の友達だったらどうするかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は外履きをふくだけでいいんじゃないかな。 ・時間がかかっても、おはしの使い方を教えてあげる。 ・言葉がわからないことを駅員さんや店員さんに説明する。 ・でも、周りの人にも説明しないと...。わかってくれるかな。 ・駅員さんや店員さんも説明しただけじゃ、手伝ってくれない。指さし表みたいなものを作ろう。 	<p>○課題解決が難しい課題を考えている児童にはその課題を持った家族に小学校6年生がいた場合を想定させる。</p> <p>○実際に起きたことを想定させるように学校生活に近づけるような課題設定を声かけする。</p> <p>○課題の解決をより深く考えさせるように「それだけで本当に大丈夫？」と再度、問い直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
12 13	<p>友達の発表に対して、自分なりの問題意識をもって感想や考えを述べさせる。</p> <p>他① 友達の発表に対して、自分なりの問題意識をもって感想や考えを述べている。</p>	<p>○前時に考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったらこうしようかな。 ・自分がもし、周りの人々だったら友達の考えを他の人にも教えてあげたいな。 ・多くの人たちの理解が必要そうだな。 	<p>○自分なりの考えをもてるように考える立場を「自分が友達」「周りの人」として着目させる。</p>
14	<p>世界の人々と共に生きる社会について、自分が調べようとする課題設定を設定させる。</p> <p>世界の人々と共に生きる社会について、自分が調べようとする課題設定を設定している。</p>	<p>○発表を振り返り、自分の身近の生活と関わらせながら共に生きていくことについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々だけではなくて、友達同士でもあたりまえって違うんじゃないかな。 ・みんな、あたりまえが違うよね。 ・何か意見や考えがちがったときにその人のあたりまえを聞いてみるのが大切。 ・どうすれば、その人のあたりまえと自分たちのあたりまえがちがうけど、共に生きていくことができるのかな。 	<p>○世界が自分の身近なところも含めて世界であることに気づくように日本も世界の一員であることを説明する。</p>

【5】本時の展開

目標：自分の生活と関わらせながら世界の国々の文化や習慣について意欲的に調べ、課題を見つけられるようにする。(課①)

：多文化、習慣について認識・理解する。(国際理解 B-2)

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 5分	<p>写真を見て自分の考えを持つ(添付資料①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・髪を染めてるのはすぐに注意するよ。 ・掃除をしないのは単なるわがままだ。 ・ルールをしっかり説明して掃除をさせる。 	<p>○振り返りの際に、児童が児童自身の変化に気づくようにワークシートに詳しく記述させる。</p>	<p>日本語学校の6年生の写真 ワークシート①</p>
<p>役割になりきって、みんなで表彰式を楽しむ計画を立てよう。</p>			
展開 30分	<p>役割カードになりきって話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数決で決定します ・公式の式なのにピアスはおかしいよ ・おそろいでつけるのが嫌なんですよ ・掃除をするのはマナーですよ。○○さんが言ってるのはおかしいよ ・せっかくだから帰りにみんなでごはんを食べよう。○○さんも今日だけいいですよ <p>役割カードと文化カードを見ながら話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「思いやり」って意識してたのになんだか悪いことしちゃったな ・ブラジルだと全然あたりまえがちがう ・そんな事情があるなんて知らなかった ・文化カードをもらってから話し合いたかった ・もう一度、しっかり話し合いたい 	<p>○話し合いで意見をまとめようと児童が思うように「チームワーク」「思いやり」「時間」に意識を向けさせる。</p> <p>○役割になりきれない児童が話し合いに参加できるようにセリフカードを用意しておく。</p> <p>○班の児童が一つの話題で話せるようにカードを見るときには班でカードを一枚ずつ見るように声をかける。</p>	<p>役割カード セリフカード 案内の手紙 計画シート</p> <p>文化カード</p>
まとめ 10分	<p>導入と同様に写真を見て自分の考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんで髪を染めているのか聞く ・ブラジルの文化を調べる ・日本の文化を説明する ・ふりかえりをする 	<p>課① 自分の生活と関わらせながら、世界の国々の文化や習慣について調べようと意欲を高め課題を見つけようとしている。(発言・ワークシート)</p>	<p>日本語学校の6年生の写真 ワークシート①</p>

授業実践の様子



導入では「写真の女の子二人がそうじをしたくないと話しているが自分たちのクラスにいたらどうするか？」という問いから始まった。

髪を染めているが、日本人なのかな？という疑問を持っている児童もいる中で考えさせた。反応としては「なぜか理由を聞く。」「そうじをしなくてもいいけど汚い中で過ごしてね」「そうじをする理由を説明する。」という考えが多かった。



展開では役割カードを用いたワークショップになる。質問に対して話し合うことになったが、どの質問も4人の班が3人対1人の構図になる。時間がある中で結論を出さなければならぬ自分の意見を出すことに我慢する児童もいれば、毅然として譲らない児童、多数決で決定する児童もいた。

話し合うが終わるとそのカードについて詳しい背景の説明を行った。(あたりまえカード)それぞれあたりまえであること、すなわち文化が違うことを提示するカードが出てくると「そういうことだったのか」「最初に知りたかった」といった声が上がっていた。

まとめでは、導入と同じ質問を行った。導入時と比べて自分の考えが変容する児童がいる一方、変容しない児童もいた。しかし、振り返りを行うと「人それぞれあたりまえが違う」や「しっかりと理由を聞くことが大切。」といった記入もあった。

【6】本時の振り返り

導入と同様の質問を行うことで自分自身の変容がわかることや役割カードでうまく役割になりきれない児童のための支援カードを準備することは効果的な活動、支援であった。また、あたりまえカードの提示の際にはまず自分の役割カードに準ずるカードを読み込み、友だちに伝える形をとることで自分ごととして役割の背景をとらえることができた。

その一方で、変容がない児童もいたためにワークショップが間接的にねらいにせまりすぎている可能性もある。また、相手の気持ちになって考えることや文化を改めてちがう視点から見る機会が少なかったため、あたりまえカードを提示した後に役割をローテーションする活動を取り入れた方が効果的であった。

【7】単元を通じた児童生徒の反応／変化

児童の変化としては大きく下記3パターンに分かれている。

1. 海外の人だけでなく、自分自身の身近でも「あたりまえ」が違うことを意識した児童

- 相手の気持ちを聞くという大切さがわかった。相手の気持ちを知ることで伝え方はちがってくる
- やっぱり人には何かわけがあることがわかった。だから、そのことを思ってこれから友だちとかにもわけがあると考えて過ごしたい
- ブラジルのことがわかった。ブラジルの人だけじゃなくてこれからは人の気持ちになって、友だちに接したい

2. 海外の人と自分の「あたりまえ」が違うことを意識した児童

- 国によって文化がちがうことがわかった。もし、外国の人と同じクラスになったり接する機会があったら、外国の人をきずつけないようにしたい
- 「みんなやっているからやろうよ」という伝え方はよくない。みんな同じではなかった。
- 国ごとの文化のちがいがわかった。それでも文化のちがいを解決する策はなかなかないし、解決策を出してもなんだか罪悪感が残ってしまう。もっと良い方法がないか考えたい
- 日本では普通でも外国の人や知らない人にとっては普通じゃないから、普通の意味をはきちがえないようにしたい

3. マイノリティ側になった場合、自分の意見を通すことは難しいことに気づいた児童

- もし自分だけがはぶかれてしまったとき、どうやってみんなを納得させればいいのか。
- 私も一人になってしまったときがある。そのときは、たしかにどうすればいいのか迷った
- あたりまえが違うと自分の意見は通らない。そこらへんはすぐく工夫しないといけない

途上国・異文化への意識の変容

(授業前)

友だちの意見を聞くことや友だちの目線に立って考えることについては、児童たちの中にも大切なことであるという自覚はあった。また、知識として日本と海外の文化がちがうことや途上国の現状については詳しくはななくとも知っていた。

(授業後)

実際に自分たちが無意識で行っている行動の中にも日本人としての「あたりまえ」があることを気づいた。そのために、海外の国々を調べる学習の際には「日本だったらこうだね」「もし、この国に行ったときに、今、調べていることを自分が知らなかったら大変だろうな」という視点で学習を進めている児童が多かった。

【8】自己評価

1. 苦労した点

導入の1時間がとても重要である。この1時間で本単元での動機づくりになるために、この1時間での苦労した点を中心に説明する。

マイノリティである状況を作成する部分と話し合う必要性をかねる教材づくりについては非常に苦労した。今回は、「表彰式に参加する」という題材設定にしたものの、学校や児童の実態に応じてはまだ研究の余地がある。また、ワークショップが話し合いのために支援が必要な児童に対しての声かけが難しい。セリフをそのまま話させてしまっはねらいに到達できないために、キーワードを児童によって使い分けることで対応した。

2. 改善点

児童たちは調べたことや考えたことを実際に試す場がないことに少しもの足りなさを感じていた。それぞれの国の人にインタビューなどができると単元として非常に納得して終わったのではないかと感じている。

3. 成果が出た点

本単元では漠然と海外の国について調べてしまう可能性がある。しかし、今回は「あたりまえ」について焦点を当てて、その国の小学生が転校してきた場合の苦労する点まで考えた。そのため、自分が調べたことを元にして、考える部分までが学習活動になる。その結果、今までは単なる知識としてしかなかった海外の異文化が自分たちの身近にあるものとして感じさせることができたのではないかと考える。

4. 備考

クラスに海外にルーツがある児童がいる場合には十分な配慮が必要になってくる。

添付資料：案内の手紙、計画シート、役割カード、セリフカード

案内の手紙

表彰式のご案内

会場：子ども文化センター

時間：17時～18時30分

服装：ご自由にしてください

※申しわけありませんが、表彰式の終了後、18時30分よりそうじをしますので、ご協力ください。

計画シート

表彰式予定計画

※必ず決めてください

- ① 集合時間
（ 時） 集合
- ② 参加の服装<○をしてくだささい>
ピアスを（ する ・ しない ）
- ③ そうじ
そうじに参加（ する ・ しない ）
- ④ 夕食
夕食に（ 行く ・ 行かない ）

【役割カード】

1

- 意見をまとめるリーダー
- なんでもみんな一緒に行動したい
- おそろいのピアス（耳のかざり）をつけるのが楽しみ
はじめてみんなで買ったものだもんね。
- 人と一緒にごはんを食べたくない。
なんか、ごはんのメニュー選ぶの大変なんだよね。

【役割カード】

2

- 家が遠いから学校が終わって遊びに行けるのは16時
- そうじなんて絶対したくない。そうじの意味がわからないよ。
- おしゃれが大好き！！
- みんなで夕食を食べれるのがこの日の一番の楽しみ！！

【役割カード】

3

- 学校をさぼるのは許せない
- 曲がったことが大嫌いで、みんなのお兄さん
- 表彰式は学校の代表として行くから、服装や言葉づかいはしっかりしないとね。

【役割カード】

4

- ヒマな時間はできるだけみんなといたい。
- 午前中には学校から帰っちゃうから13時に集合がいい。
- おそろいのもをつけるのが大好き。
- そうじをするのは大人のマナー

【あたりまえカード】～1～

- 人と一緒にごはんを食べたくない。
なんか、ごはんのメニュー選ぶの大変。
ベジタリアンって知ってるかな？
実は、肉が食べれないのがあたりまえ。だから、お店選びとかでみんなに迷惑をかけたくないんだ。

【あたりまえカード】～2～

- そうじなんて絶対したくない。そうじの意味がわからないよ。
ブラジルや南アフリカには学校や家でそうじをすることなんてないんだ。
そうじをする仕事は身分が低い人がやる仕事っていうイメージなんだよ。

【あたりまえカード】～3～

- 表彰式は学校の代表として行くから、服装や言葉づかいはしっかりしないとね。
ブラジルではピアスを学校につけてくるのがあたりまえ。全然、しつれいなことではないんだよ。でも、この話し合いでは、日本の考え方が通用しなかったね…。

【あたりまえカード】～4～

- 午前中に学校が終わるから13時に集合がいい。
ブラジルの学校は、半日制だからお昼には終わってしまうのがあたりまえなんだ。
だから、さぼってるわけではないんだよ。

【セリフカード】（困ったときに言ってね）～1～

- 「みんなで行動したいから、一つの意見にまとめよう」
- 「ピアスはみんなでつけようね！！」
- 「帰りのごはんは、食べないで家で食べよう。夜おそくなるし、お金もないし」
帰りのごはんだけは絶対にゆずっちゃダメだよ！！
家で食べることをお母さんから言われてるんだ。

【セリフカード】（困ったときに言ってね）～2～

- 「家が遠いから 16 時にしか集合できない。」
- 「そうじなんて絶対したくない。そうじする意味がわからないよ。」
そうじだけは絶対にゆずっちゃダメだよ！！
とにかくそうじはしたくないんだ。一回も家でそうじしたことないよ。
- 「ピアスっておしゃれ。せっかくの表彰式だからおしゃれして行こうよ。」
- 「帰りのごはんはみんな一緒がいいな。これが、一番楽しみだったんだ。」

【セリフカード】（困ったときに言ってね）～3～

- 「学校はしっかり行って、16時に集合ね。13時集合なんて、学校さぼってるだろ！」
- 「学校でやっていることだからそうじもしっかりやろうね」
- 「表彰式にピアスをつけるのは変だよ。みんなにしつれいだよ。よく考えてみなよ。
絶対におかしいだろ。」
表彰式にピアスをして、行くことだけは絶対にゆずっちゃダメ！！
君も学校にピアスしないでしょ？絶対に変じゃん。

【セリフカード】（困ったときに言ってね）～4～

- 「学校を 12 時には帰っちゃうんだ。だから 13 時集合にしようよ」
「16 時集合だったらヒマじゃん。13 時にしてみんなで遊ぼう。」
13 時集合にさせよう。とにかく長い時間一緒にいるのが親友でしょ！！
絶対にゆずっちゃダメだよ
- 「そうじするのは大人のマナーだよ。」

いろいろな考えにふれよう

氏名	中山 史也	学校名	中央市立田富南小学校		
担当教科	全教科	実践教科	道徳		
時間数	3時間	対象学年	6学年	人数	33人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標

自分と異なる意見も尊重し、よりよい人間関係を形成していこうとする態度を養う。

【2】単元の評価

○立場や置かれた状況によって様々な考えがあり、互いに認め合うことで、よりよい人間関係が形成できることを体験に根ざして捉えることができるか。	短期の評価
○自分と異なる意見も尊重し、よりよい人間関係を形成していこうとする態度を養うことができるか。	長期の評価

【3】単元設定の理由

✓ 児童／生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観

本校には様々な国にルーツを持つ児童が多く在籍している、私が受け持つ6年生の中には、ブラジル・ペルー・フィリピン・アメリカ・オーストラリアにルーツを持つ児童が9名在籍している。児童たちは、同じ教室に様々な国にルーツを持つ者がいて一緒に生活していることを入学当初から「当たり前」のことであると感じている。しかし、その背景にはそれぞれの文化や考え方があり、それは時として「違う」という点でぶつかり合ったりするものでもある。普段生活している中でも、自分の考えの正しさに固執するあまり他者の意見を聞かなかったり、異なる考えのものを理解しようとしないう姿が見られたりする。

そこで、自分が教師海外研修を通して体験したことを題材に、それぞれ違う立場にいる者同士の考え方に触れることのできるワークショップを行うこととした。

ワークショップの特徴として挙げられること、一つは「役割カードに記されている役割になりきる」ということ。文化や考え方がそれぞれ違う四人の人物を設定し、ある表彰式に行くための計画を立てるという場面設定をする。異なる文化や考え方がある中で、一つの答えを出さなければならないことでぶつかり合いが起こる。そこでの困難さを感じてもらいたい。もう一つは「正体カードを提示し相手の背景を知る」ということ。計画を立てる話し合いを終えた後で、それぞれの人物の持つ背景が記されている正体カードを互いに共有することで、相手の発言には理由が隠されていたことを理解する。ここで、違う立場にいるものを理解するためには何が必要かを感じてもらいたい。

このワークショップが、子どもたちが「ここで感じたことは実は普段から私たちが経験していることかもしれない。」と実生活に置き換えて考えられるものであり、それを踏まえて、自分と異なる意見も尊重し、よりよい人間関係を形成していこうとする態度を養っていける一つのきっかけづくりになればいい。

【4】展開計画(全3時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	異なる立場にいる者の思いを理解しようとする心情を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めから、日本語でない他国の言語を話しながら授業を進める。ここでその言語を理解できる者(外国籍児童)と理解できない者(外国籍児童以外)2つの立場をつくりだす。 教師が話し出した言語を聞いて感じたことを発表してもらう。2つの立場それぞれから。 クラス内には、様々な国にルーツを持つ児童がいることを振り返らせ、その児童たちから、日本の学校で感じた困難さや苦勞を発表してもらう。 今日の授業を通して、何を学んだか記述する。  	ワークシート
2 本時	互いのちがいを認め、理解しながら他者を尊重する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分が人と違うと感じた経験を想起させる。 四人一組をつくり、自分ではない人物Aさん・Bさん・Cさん・Dさんに役割カードに沿ってなりきり、ある表彰式に出席するための計画を決める。 話し合いをしてみて、感じたこと思ったことをワークシートに記入する。 正体カードに記載している内容をもしはじめから知っていたら、どんなことに気をつけて話し合いをしていたかワークシートに記入する。 授業を通して、学んだことや友だちの意見を聞いて学んだことなどを書く。    	Aさん Bさん Cさん Dさん ネームタグ 表彰式計画表 役割カード 正体カード ワークシート
3	世界には様々な文化や背景を持つ人々がいることを知り、互いに尊重し合いながら異文化理解に努めようとする態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ブラジルでの実体験を伝える中で、世界には様々な文化や背景を持つ人々がいることを知る。 ブラジル以外の独自の文化を持つ国やそこで生活する人々を紹介する。 授業を通して、学んだことや友だちの意見を聞いて学んだことなどを書く。 	教師海外研修で得た資料(写真・映像) ワークシート

【5】本時の展開

ねらい : 互いのちがいを認め、理解しながら他者を尊重する態度を育てる。

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入(5分)	1 自分が人と違うと感じた経験を想起させる。 ○「人と違う」と感じたことはある? ・ある ・ない ○そう感じるのとはどんなこと? そう感じるのとはどんな時? ・顔 ・身長や体重 ・性格 ・話し合いをしている時 ・授業で自分の考えを出す時	<ul style="list-style-type: none"> 自分が人と違うと感じた経験を想起させることで、本時で学習することの見通しを持たせる。 あるかないかの二択にし、全員が挙手などで参加しやすい場づくりをする。 違いを感じることや違いを感じる時を具体的にイメージしてもらうことで、自分自身の生活と結びついていることを意識させる。 	
展開(35分)	2 四人一組をつくり、自分ではない人物Aさん・Bさん・Cさん・Dさんになりきり、ある表彰式に出席するための計画を決める。 次の①～④の項目について、グループで話し合う。 ①行き方 (大人といっしょに行くか・子どもだけで行くか) ②表彰式の服装 (肌が見える服そう・肌が見えない服そう) ③食事メニュー (和食【肉なし】・洋食【肉あり】) ④会場の掃除 (そうじする・そうじしない)	<ul style="list-style-type: none"> Aさん～Dさんのネームタグを事前に用意し、首にかけてもらうことで、誰がどんな人物になっているか教師側、子どもたち自身が把握しやすいようにする。 【話し合いを始める前に伝える点】 Cさんだけは、女の子に担当してもらう。 話し合いが終わるまで必ず役割になりきる。 各項目は時間内に決める。 カードは相手に絶対見せない。(1項目ずつ) 話し合いに入る前 役割カードを読んで、役になりきる時間を1分とる。 話し合い中 制限時間2分とし、時間厳守。 	Aさん Bさん Cさん Dさん ネームタグ 表彰式計画表 役割カード
	3 話し合いをしてみて、感じたこと思ったことをワークシートに記入する。 ○計画を立てる話し合いをしてみて、どんなことを思いましたか? <ul style="list-style-type: none"> 意見が食い違ってどちらにするか全然まとまらなかった。 相手の意見に耳を傾けることができなかった。 自分の考えを伝えることに必死だった。 多数決で決まってしまった。 ジャンケンで決まってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> 発問を板書する。 グループ内と全体で意見を共有する。 机間巡視を通して、それぞれの児童の記述を把握しておき、共有する際に活用する。 	ワークシート
	4 正体カードを配布する。 A→B→C→Dの順で、正体カードに記載している内容を他のメンバーに伝える。	<ul style="list-style-type: none"> まずは自分自身で正体カードを読む時間を確保し、自分の中で理解してから他のメンバーと共有するようにする。 	正体カード

	<p>5 正体カードに記載している内容をもしはじめから知っていたら、どんなことに気をつけて話し合いをしていたかワークシートに記入する。</p> <p>○もし、はじめから相手の正体カードの内容を知っていたら、あなたはどのようなことに気をつけて話し合いをしていましたか？</p> <p>・相手の理由を聞くように気をつけていたと思う。</p> <p>・自分の考えを押し付けるだけでなく、相手の意見に耳を傾けることを意識していたと思う。</p>	ワークシート
終末 (5分)	<p>6 今日の授業を通して、学んだことや友だちの意見を聞いて学んだことなどを書く。</p> <p>○今日の授業を通して、学んだことや友だちの意見を聞いて学んだことをワークシートに書いてください。</p>	<p>・発問を板書する。</p> <p>・グループ内と全体で意見を共有する。</p> <p>・机間巡視を通して、それぞれの児童の記述を把握しておき、共有する際に活用する。</p> <p>・教員の方からあえてこのワークショップのねらいや答えは伝えない。</p> <p>・話し合いを通して感じたことや板書してある友だちの意見などを活用するよう声かけをする。</p>

授業実践の様子



導入の発問二択にすることで
挙手しやすい場づくり



ネームタグで役割の明確化



グループ内で互いの意見を
しっかり伝え合う場づくり



役割カードで役割に
なりきって話し合い



思ったこと感じたことを
記述する時間の確保



正体カードの内容を知って
メンバーと共有化

【6】本時の振り返り

- ・導入部分で、普段自分たちが感じる「人との違い」を問うことで、本時の学習の見通しを持つきっかけになった。
- ・役割カードで役割になりきってもらう設定にしたことで、普段発言することが苦手な児童も積極的に話し合いに参加していた。役割カードの持つ可能性を感じた。
- ・話し合いに入る前に注意してほしい点をかみ砕きながら丁寧に説明したことで、話し合いの流れをスムーズにすることができた。
- ・話し合いをしてみても思ったこと感じたことを記述する→正体カードを提示する→正体カードの内容を知っていたらどのようなことに気をつけて話し合いをしていたか記述する、この流れで展開していくことで、児童の気持ちの変化や気づきをうまく引き出せると感じた。
- ・終末での発問を具体的にしぼった内容にするのではなく、広い捉え方にしたことで、児童一人ひとりの思いや考えを引き出すことができた。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

本時で子どもたちに投げかけた二つの発問に対する代表者の考え

<p>左側</p> <p>計画を立てる話し合いをしてみても、どんなことを思いましたか？</p>		<p>右側</p> <p>もし、はじめから相手の正体カードの内容を知っていたら、あなたはどのようなことに気をつけて話し合いをしていましたか？</p>
--	--	---

単元を通し変容した児童の態度や学習意欲

- ・互いの違いを理解し合おうとする態度
- ・違いをもっと知りたいとする意欲
- ・なぜ違うのか、その裏に隠された理由や事実を知ろうとする姿勢
- ・違う部分を認め合おうとする心情や態度

途上国・異文化への意識の変容

(授業前)

- ・クラスの中には、ブラジル・ペルー・フィリピン・アメリカ・オーストラリアにルーツを持つ児童が多く在籍しているが、入学当初からほとんど皆一緒に生活しているため、異文化を意識する雰囲気子どもたち同士の中でなかった。子どもたちは、「同じ教室に様々な国にルーツを持つ者がいて一緒に生活している」それが「当たり前」のことであると感じていた。

(授業後)

・授業を通して、今まで感じていた「同じ教室に様々な国にルーツを持つ者がいて一緒に生活している」という「当たり前」が、考えてみると実はすごいことだと気づいたようだった。私はブラジルに足を運び、はじめて「多文化共生」を肌身で感じてきたが、33人の子どもたちは、すでに教室の中(小さな社会の中)で多文化共生を実現していて、それには互いが理解し合おうとする心があるからだと改めて振り返ることができた。今できている「当たり前」のことをこれからも続けていきたいと感じる児童が多くいた。

【8】自己評価

1. 苦労した点

・実際にクラスの中に外国籍児童がいることで、学習や生活を進める上で互いにメリットとなる点が多くあるが、その一方で途上国や異文化について取り上げる際、その国やその国にルーツを持つ外国籍児童たちに対する偏見が生まれまいよう細心の注意をはらわなければならない点は苦労した。

2. 改善点

・実際にブラジルへ足を運び手に入れた資料(写真や映像など)をもっと活用すべき点は改善していきたい。
・子どもたちにいかに「他人事とせず自分事とするか」を教材研究や準備の段階で今回の実践以上にじっくり考えていく必要があると感じた。

3. 成果が出た点

・外国籍児童に対する見方の変容。外国籍児童は、入学当初から日本語の更なるレベルアップを目指して、周囲よりも倍以上の課題を毎日こなしている。そんな外国籍児童たちの日々の頑張りや努力への賞賛や応援する雰囲気が今まで以上にクラスの中で広まった。
・今までは、違いに対してマイナスのイメージが児童の中に強くあったが、違いは実はプラスにもなっていく(違いを認め合い生かし合うことでより良いものを創り上げることができるなど…)ことに気づけたことで、新たな視点で物事を見ることに繋がった。

4. 備考

・今のクラスの子どもたちを受け持つことが決まった時、同じ教室に様々な国にルーツを持つ者がいることは難しい面が沢山あるのではないかと考えていた。しかし、ふたを開けてみたら、そこには「同じ教室に様々な国にルーツを持つ者がいて一緒に生活している」ということは「当たり前」という雰囲気が広がっていて、外国籍児童もそうでない児童も互いに協力し合いながら生活していた。私自身も児童たちの姿を見て、その雰囲気にすぐ馴染むことができた。今回の実践は、自分自身にも児童たちにも、改めて「当たり前」について振り返らせることができる内容になったと思う。今「当たり前」にできていることは、とても大切なことであり、これから生きていく中でも忘れないでほしいものであることを、卒業までの残りわずかな日々の中で全力で伝え続けていきたい。

添付資料：ワークシート、表彰式計画表、役割カード、正体カード

ワークシート

ワークシート	名前()	2018年12月13日
① 計画を立てる話し合いをしてみて、どんなことを思いましたか？		
② もし、はじめから相手の正体カードの内容を知っていたら、あなたはどのようなことに気をつけて話し合いをしていましたか？		
◎ 今日の授業をとおして、学んだことや友だちの意見を聞いて学んだことなどを書きましょう。		

表彰式計画表

ひょうしょうしき 表彰式	けいかく 計画表
① 行き方【大人といっしょに行く・子どもだけで行く】	
② 表彰式の服装【肌が見える服装・肌が見えない服装】	
③ 食事メニュー【和食(肉なし)・洋食(肉あり)】	
④ 会場のそうじ【そうじする・そうじしない】	
*一つにつき2分で必ず決めて下さい! 時間は限られています!	

【役割カード A】

<性格> リーダーシップがあり、自分の意見を相手にしっかり伝えることができる。

①食事メニュー
なんでも食べることができる。
だから…『なんでもいいよ!!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと！

【役割カード A】

<性格> リーダーシップがあり、自分の意見を相手にしっかり伝えることができる。

②会場のそうじ
そうじするのは当たり前。
だから…『絶対にそうじしよう!!!』
『そうじしなきゃいけないよ!!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと！

【役割カード A】

<性格> リーダーシップがあり、自分の意見を相手にしっかり伝えることができる。

①行き方
子どもだけで家へ出かけることができる。
だから…『大人はいいしょじゃなくていいよ!!!』
『自分たちだけで行こう!!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと！

【役割カード A】

<性格> リーダーシップがあり、自分の意見を相手にしっかり伝えることができる。

②表彰式の服装
式なので、服装はどちらからといえば落手でない方がよい。
だから…『服が見えるとおんまり良くないんじゃない?』
『服そでシャツとかズボンとかの方がいいよ!!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと！

【役割カード B】

<性格> リーダーシップがあり、自分の意見を相手にしっかり伝えることができる。

①食事メニュー
一番、肉が大好き。
だから…『肉をどうしても食べたい!!!』
『肉のある洋食にしよう!!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと！

【役割カード B】

<性格> リーダーシップがあり、自分の意見を相手にしっかり伝えることができる。

②会場のそうじ
そうじするのはおかしなこと。
だから…『そうじはしないでいいよ!!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと！

【役割カード B】

<性格> リーダーシップがあり、自分の意見を相手にしっかり伝えることができる。

①行き方
大人がついていないと外へは出ることができない。
だから…『自分たちだけでじゃ絶対ダメだよ!!!』
『大人といっしょに行こう!!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと！

【役割カード B】

<性格> リーダーシップがあり、自分の意見を相手にしっかり伝えることができる。

②表彰式の服装
お祝いされるし、きれいなかつこうがいい。持っている服は、服が見える服が多い。
だから…『服が見える服装で行こう!!!』
『少しくらい見えてもいいじゃない!!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと！

やくわり
【役割カード C】

①行き方
大人がついている方が良いが、子どもだけでもいい。
だから…『大人がいれば良いかもしれないけど…』
『でも、子どもだけでもいいですよ!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと!

やくわり
【役割カード C】

②表形式の服装
前を見せることは、絶対によくない。
だから…『前が見えない服で行こう!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと!

やくわり
【役割カード C】

③食事メニュー
肉は食べたくない。
だから…『肉を食べるのはやめよう!!』
『野菜じゃなくて和食にする!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと!

やくわり
【役割カード C】

④会場のそうじ
ふだんの生活でそうじをしない。
だから…『やらなくてもいいんじゃない?』
『そうじはしない方がいいよ!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと!

やくわり
【役割カード D】

①行き方
大人がついている方が良いが、子どもだけでもいい。
だから…『大人がいれば良いかもしれないけど…』
『子どもだけでもいいですよ!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと!

やくわり
【役割カード D】

②表形式の服装
服にそんなにこだわらない。
だから…『前が見えても見えてなくてもどちらでもいいよ!!』
『みんなに任せるよ!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと!

やくわり
【役割カード D】


③食事メニュー
肉は食べたくない。
だから…『肉を食べるのはやめよう!!』
『野菜じゃなくて和食にする!!』

*このカードは他の人には絶対に見せないこと!


やくわり
【役割カード D】

④会場のそうじ
ふだんの生活でそうじをしない。
だから…『やらなくてもいいんじゃない?』
『そうじはしない方がいいよ!!』


*このカードは他の人には絶対に見せないこと!




【正体カードA】
 家のいるところでは、子ども達だけで壁下校したり、外で遊んだりすることができると言っている。だから、子どもだけで外へ出かけることができる。『大人はいいよじゃなくいいよ！』『自分たちだけで行こう！』って言ったんだ。
 そして、扉を、そうじをするよ。学校でも、お昼の後しっかき時間にかけてそうじをするよ。だから、そうじするのは当たり前。
 『絶対にそうじしよう！』
 『そうじしなきゃいけないよ！』って言ったんだ。



【正体カードB】
 家の住んでいるところは、安全でなくて、子ども1人じゃ外に出ることなんてできない。だから、大人がついていないと外へは出ることができない。『自分たちだけでじゃ絶対ダメだよ！』『大人といっしょに行こう！』って言ったんだ。
 家は学校でそうじなんて絶対にしない。学校は早ぶ通、そうじをする場所じゃないよ。だから、そうじするのはおかしなこと。『そうじはしないでいいよ！』って言ったんだ。



【正体カードC】
 家のところでは、絶対に待たなければいけない決まりがあるんだ。まず二つは、お母の手は服をかくさなきゃいけないこと。だから、服を見せることは、絶対にいやだ。『服が見えない服で行こう！』って言ったんだ。もう一つは、服を食べてはいけないということ。だから、肉は食べたくない。『肉を食べるのはやめようよ！』『雑食じゃなくして和食にする！』って言ったんだ。
 家は学校でそうじなんて絶対にしない。学校は早ぶ通、そうじをする場所じゃないよ。だから、そうじするのはおかしなこと。『そうじはしないでいいよ！』って言ったんだ。



【正体カードD】
 家はベジタリアンなんだ。ベジタリアンの意識は分かるかな？肉は食べない、野菜を主食に食べるんだよ。だから、肉は食べたくない。『肉を食べるのはやめようよ！』『雑食じゃなくして和食にしようよ！』って言ったんだ。
 家は学校でそうじなんて絶対にしない。学校は早ぶ通、そうじをする場所じゃないよ。だから、そうじするのはおかしなこと。『そうじはしないでいいよ！』って言ったんだ。

カルチャーショック体験！

氏名	山本 エメリン	授業実施学校名	横浜市立生麦小学校		
担当教科	国際理解教育	実践教科	国際理解教育	所属	横浜市教育委員会
時間数	1時間	対象学年	6年生	人数	34人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標

子どもたちにカルチャーショックを体験させ、今後どのような行動をとるべきか、どのようなことができるかについて考えさせる。

【2】単元の評価 規準例

(ア) 関心・意欲・態度	ワークショップに関心を持って参加することができるか。
(イ) 思考・判断・表現	ワークショップにおいて、怒ったり、困ったり、悩んだり、解決したい気持ちなど、感情移入できているか。
(ウ) 技能	ロールプレイにおいて、役割をうまく演じることができるか。
(エ) 知識・理解	マイノリティとマジョリティ両者の立場を理解することの意味に気づき、両者の立場を理解することができるか。

【3】単元設定の理由

✓ 児童／生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観

異なる文化に対し、興味関心をもって知ろうとする児童が多い。違いを知ることにとどまらず、他者の立場に立った視点を養うことも必要だと考える。小学校6年生なので、一方通行の授業ではなく、ゲーム感覚で学べるワークショップを行った。国際理解の授業では、外国人講師（IUI）は英語のみを使用するため、なるべく優しい英単語を使うことを意識した。担任教諭が日本語で補足をしてくれるが、生徒たちの理解度をよく確認しながら指導することに留意した。

【4】展開計画(全1時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
本時	子どもたちにカルチャーショックを体験させ、今後どのような行動をとるべきか、どのようなことができるかについて考えさせる。	ジェスチャーゲームと、ロールプレイゲームをさせて、異文化体験と自分とは異なる他者の立場になることを体験させる。	ジェスチャーカード ロールプレイカード ワークシート

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (2分)	英語の授業が始まったことを示すために、英語で挨拶をする。 IUI: Good morning! How are you? TT: Good morning! I am fine. And you? IUI: I am good! Thank you. Good morning everyone! How are you? Students: I am fine. And you? IUI: I am great! Thank you.	最初は見本として担任の先生(TT)との挨拶を見せる。	
展開① (15分)	<p>【ジェスチャーゲーム】 ねらい ※文化の違いについて気づくこと ※マイノリティの気持ちを感じること</p> <p>Today we are going to study some gestures from other countries! From now on, please make a group of 4 people. I'm going to teach you the gestures. Let's try!</p> <p>ジェスチャー練習 Now Let's do the matching game! Here's some card. I'm going to ask some questions in English. But you do not speak. You can use only gestures that you learned before. You have to find same answer as many as you can. The group who finds the most matching will be winner. You have only 3minuts. Ready start! Time is up!! How many matchings can you make? More than 10? (Check the number) All right. Now let's change the group.</p> <p>同じことをする。(しかし、教えたジェスチャーが違うので合わないことが多くなる) Time is up! How many matchings can you make?</p> <p>前回と違って、マッチングする数が減る What happen? What do you think? Please talk about it in the group. To tell the truth, I teach you different gestures. How did you feel when you are different from others?</p>	<p>AETの問いかけに反応ができていないか、TTが確認する。 カードを他のグループに見せないように注意する。</p> <p>ジェスチャーカードを配り、写真の通りに各グループで練習させる。教師も説明は言葉でせずに写真を指示しながら、ジェスチャーで教える。</p> <p>適宜、ルールについてTTが日本語で意味を確認する。</p> <p>各グループから3人ずつ違うグループに移動させる。</p> <p>どうして、同じ質問なのに、答えが合わないのか話し合わせる。そのとき、どう感じたか。</p>	<p>ジェスチャー指示カード</p> <p>イラストカード</p> <p>ストップウォッチ</p>

展開② (25分)	<p>【ロールプレイ】 ねらい ※自分と違う人と出会う時、どのような行動をとればいいのかを、体験的に学ばせる</p> <p>「それではここから、ある女の子の物語を読んでもらいます。」</p> <p>グループごとカードを読んで、そのロールプレイを演じてみてください。</p> <p>他のみなさんは何が起きたのか、考えてみてください。</p> <p>カードを読み込んだ後、各グループで劇の練習。</p> <p>何グループかに発表してもらい、何が起きたのかを話し合っ、意見を出してもらおう。</p> <p>振り返りシートを記入。</p> <p>「それではここから、ある女の子の物語を読んでもらいます。」</p> <p>グループごとカードを読んで、そのロールプレイを演じてみてください。</p> <p>他のみなさんは何が起きたのか、考えてみてください。</p> <p>ロールプレイカードを配る。</p> <p>カードを読み込んだ後、各グループで劇の練習。</p> <p>何グループかに発表してもらい、何が起きたのかを話し合っ、意見を出してもらおう。</p>	<p>ロールプレイカード配布</p> <p>振り返りシート配布</p> <p>ロールプレイカード配布</p>	<p>ロールプレイカード</p> <p>振り返りシート</p> <p>ロールプレイカード</p>
	まとめ (5分)	振り返りシートを記入。	振り返りシート配布

授業実践の様子



ジェスチャーゲームの様子



ロールプレイカードを読んでいる様子



グループで考えた劇を発表している様子

【6】本時の振り返り

児童たちが感想を発表する際、このワークショップのねらいや目的をすべて言ってくれて、伝えたいことや、考えて欲しいことなどが伝わったと実感した。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

ジェスチャーゲームをしている時の児童のことは

「考え方が違うから混乱してしまった」「マイノリティになって寂しかった」「かわいそうだ」「自分がやっていることと違う。なんで？どうして？」「そんな簡単な遊びやスポーツできないのか？またはできるの？っていうカードがあってびっくり」

ジェスチャーゲームの意味を知った後の児童のことは

「おどろいた」「なるほどと思った。かわいそうだなー。」「外国と日本の文化が違うのもこのことかなと思いました」「身近なことにもあると思いました」

ロールプレイゲームをしている時の児童のことは

「かわいそうだなーと思いました」「みんな演技上手だなと思いました」「ぜんぜん外国の文化などが知らないなっと感じました」「日本文化と外国文化が違うから色々勉強しようと思いました」

ロールプレイゲームのそれぞれの理由を知った時の児童のことは

「初めて知ることばかりだった」「かわいそうだなー」「やだなことをしていると思ってすぐに避けたりしないようにしたいと思いました」「やっぱりこういう間違いはあるから色々勉強したいです」「外国だと違う反応するんだなと思いました」

児童の感想

「外国に行った時も反応に気がつけたほうが良いと思いました」「外国の文化をもっと知りたいなと思いました」「言葉話してはいけない、つまり、言語が通じない時すごくテンパりました」「このワークショップで、とても他の人の気持ちになることができ、良い経験ができました」

単元を通し変容した児童の態度や学習意欲

ワークショップが終わった後も、児童たちが質問に来たことから、もっとこのテーマについて知りたいと感じる児童がいると考える。自分たちが今まで気づいてなかったことに対し、意識して気づくようになった子どもが多いと感じる。自分も外国に行ったら同じ経験があるかもしれない、と自分事として、今日本に住んでいる人としてどうサポートすれば良いのか友達同士で休み時間に話している子供もいた。

途上国・異文化への意識の変容

(授業前)

児童たちの中で海外に行ったことがある子は少ない。海外に行ったことがある児童でも、旅行で外国の一面しか経験したことがないので、世界の中に違う文化、生活、言語、食べ物、学校などがあることを意識していなかった。

(授業後)

多くの児童が、外国人が初めて日本に来る時と同じカルチャーショックを体験した。これからもっと海外に興味を持ってくれる子どもたちが増えて、文化、言語、食べ物など、途上国について調べるようになった。自分の国についてもまだまだ知らないと感じた児童もいた。外国人に日本の文化、言語、歴史などを良く説明できるように勉強したいとの声もあがるようになった。

【8】自己評価

1. 苦勞した点

- ジェスチャーゲームの際、しゃべってはいけないことが分かっているにもかかわらず、話してしまうグループがあった。
- 隣のグループのカードを見てしまう児童がいた。
- 演技をすることが苦手な児童もいて、上手く伝えることができなかったグループもあった。

2. 改善点

- ゲームの際、ルールの徹底をするべきであった。
- グループはできるだけ離れて着席させるべきであった。
- ロールプレイの練習の際、ポイントになる箇所をつたえ、その部分をきちんと演じさせるように指導するべきであった。

3. 成果が出た点

- IUIとTTは、ワークショップをとっても良いチームワークで行うことができた。
- 簡単な英語を使うことと、できるだけ短い文章を使うことによってTTが日本語に通訳しなくても児童に伝えることができた。
- 時間を見ながら指導計画通りにすすめることができた。
- 本時のねらいが伝わり、異文化を知るだけでなく、他者の立場になって考えるという姿勢を児童が持つようになったことが成果だと考える。

添付資料：ロールプレイカード

山本エメリン、11歳で初めて日本に来た時のカルチャーショック
実際にあった話

ロールプレイ：Aは海外から転校してきた生徒 Bは一般生徒 Cは先生

5. 言葉の意味

学校内では（先輩）と言う言葉をたくさん聞いたので、学校の中に孤児院のような場所があると思って、探しましたがなかなか見つからなかった。

B：先輩！こんにちは！

B2：先輩、話があります！

B3：先輩、元気ですか？

A：えーみんなはセンパイなんだー。大変だなー。学校に住んでるのかな？

（先輩を見て回る）

見つからない！不思議な学校だ！

理由：母国語では『先輩』の意味は SEM 『ない』 PAI 『お父さん』なので、『親がいい』と言うことだと思いました。親がいない生徒たちが住んでいる場所が学校の中にあると思いました。

振り返りシート
ワークショップについて

1. ジェスチャーゲームの時に他の人が自分と違うと思った時に、どう感じましたか？
2. その後自分のジェスチャーゲームの相手に相手のジェスチャーの意味が違っていると分かった時、どう感じましたか？
3. 他のグループのロールプレイを見た時、どう感じましたか？
4. ロールプレイの後、実際にあった話の理由を聞いた時どう感じましたか？
5. 自由に感想を書いてください。

ジェスチャーゲームで他者理解と自己理解

氏名	江本 敦子	学校名	横浜市立潮田中学校		
担当教科	英語	実践教科	道徳		
時間数	1時間	対象学年	2年	人数	40人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標

様々な文化を認め、文化の違いという角度から異文化を認め合う気持ちを育てる

【2】ねらいとする価値

(ア) 道徳的実践意欲と態度	他の人の見方や考え方を認め、それぞれの個性や立場を尊重しようとする。
(イ) 道徳的判断力	自分と異なるものの考え方があることを認めようとする気持ちを持つ。
(ウ) 道徳的心情	人それぞれの考え方があることに気づき、個性や立場を尊重することの大切さを理解する。
(エ) 内容項目	<p>【主として集団や社会との関わりに関すること】 視点C-18 国際理解、国際貢献 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。</p> <p>【主として人との関わりに関すること】 視点B-9 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。</p>

【3】単元設定の理由

✓ 児童／生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観

本校は2割の生徒が外国につながる生徒で、つながる国は南米を中心に12カ国に及ぶ。多文化共生的な環境があり、様々な文化を受け入れる土壌がある。毎年2月には多文化ウィークがあり、地域の外国の方を招いて様々な文化を体験するワークショップや、講演会を行っている。また10月にも JICA 日系社会次世代育成リーダーとの交流を行い、本校ならではの多様性を生かし、生徒による通訳を行いながら南米からの留学生と交流を行った。

【2年4組】

明るく好奇心旺盛な生徒が多く、男女の仲も良い。挙手での発言も多く、ペア活動やグループワークでも男女を気にすることなく、協力して取り組んでいる。ただ、自分の考えや気持ちを整理して、うまく言葉で表現したり、書いたりすることが苦手な生徒もいる。

人の話を静かに聞くことができる生徒が多くいる一方で、自分中心的な発言や行動をしてしまう姿も見られる。

文化の違いという違う角度から物事を考え、思いやりの気持ちを持って、他者と接していける心情を育てたい。

【4】展開計画(全1時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
本時	様々な文化を認め、文化の違いという角度から異文化を認め合う気持ちを育てる。	①ジェスチャーを使ったワークショップ ②実際に起こった出来事を元にしたロールプレイ ③道徳の教科書を使ったワークシート	イラストカード ロールプレイカード 道徳ワークシート 振り返りシート

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入(10分)	<p>T: 今日は異文化理解体験のひとつとして、ジェスチャーゲームをしましょう。 日本にもさまざまなジェスチャーがありますね。 人を呼ぶときはどうやって呼びますか? ➡手首を振っておいでをします。 アメリカではこのジェスチャーは「あっちいけ」の意味でとられたりします。 他にも、拳手をするとき、欧米は人差し指を立てたり、国によって様々なジェスチャーがあります。 今日はみなさんに南米のアマゾンに住むインディアンのジェスチャーを紹介します。 まず4人(3人)のグループを作ります。 ここからは絶対に話してはいけません。 カードには「はい」と「いいえ」のジェスチャーが書いてあります。 話をせずにジェスチャーの確認をしてください。 S: ジェスチャー練習 おぼえたら、ジェスチャーカードは必ず回収する T: それではこれから、共通点探しゲームをします。 ここに、カードがあります。カードを見ながら、「できる」か「できない」か、Yes、Noで答えてください。 グループの全員が同じ答えになるカードをできるだけ多く集めてください。カードは順番にめくって行ってください。 ただし、絶対に話してはいけません。先ほど覚えたジェスチャーだけを使ってください。 時間は3分間です。 よーい、スタート。 はい、終了です。同じ答えになったカードは何枚集まりましたか? ➡一番多く集まったグループに拍手 では、今度はグループを変えましょう。 右上角に座っている生徒以外の3人は他のグループへ移動する。 では、できるだけ多く共通点を見つけましょう。 絶対に話してはいけません。 同じことをする。(しかし、教えたジェスチャーが違うので合わないことが多くなる) はい、終了です。ここからは話してもいいです。 (前回と違って、マッチングする数が減るはず) どうですか? いくつ共通点が見つかりましたか? 最初の時より、ずいぶん減りましたね? どうしてだと思いますか?</p>	<p>カードを他のグループに見せないように注意する。 ジェスチャーカードを配り、写真の通りに各グループで練習させる。 教師も説明は言葉でせず、写真に指示しながら、ジェスチャーで教える。</p> <p>各グループから2人ずつ違うグループに移動させる。</p> <p>どうして、同じ質問なのに、答えが合わないのか話し合わせる。 そのとき、どう感じたか。</p>	<p>ジェスチャー指示カード</p> <p>イラストカード</p> <p>ストップウォッチ</p>

展開(25分)	<p>グループで話し合ってください。 ➡前回よりも共通点が見つかりにくくなったことについて、グループで話させる。 何が起きたと思いますか? ➡何人かに質問する。 最後に種明かし 実は先生はYes Noのジェスチャーを半分のグループに反対に教えていました。 他の子とあたり前が違うと思ったとき、どう思いましたか? ➡何人かに質問する</p> <p>それではここから、ブラジルから来たある女の子の物語を読んでもらいます。グループごとカードを読んで、何が起きたのか考えてみてください。 ロールプレイカードを配る。</p> <p>カードを読み込んだ後、グループで話し合わせ、代表が出た意見を書き込む。</p> <p>何グループかに発表してもらい、何が起きたのかを話し合っ、意見を出してもらおう。 ➡答えのカードを配って、理由を説明する。</p>	<p>グループに一枚ずつ同じカードを配る。</p> <p>カードは3種類くらい時間を見て、配る。</p>	<p>ロールプレイカード</p> <p>答えのロールプレイカード</p>
	<p>最後にエメリンの紹介をする。 これは、実際にこの潮田中学校で起こった話です。彼女は10年前の潮田中学校の卒業生です。</p> <p>他にも日本で私たちが当たり前と思っていることが、外国の人からは驚かれることがあります。ワークシートに入ることばを考えてみましょう。 ➡教科書P90~97のマンガの紹介 今日の活動を通してどう思ったか、最後に振り返りシートに記入してください。 自分にとって当たり前のことが、文化や国がちがえば、まったく反対の意味になったり、違った意味になったりします。いろいろなものの見方や考えがあることを知って、自分だったらどう接していくか考えてみてください。 最後に今日の授業を通して感じたことを書きましょう。 振り返りシートを記入</p>	<p>ワークシートのマンガのふきだしに記入</p> <p>振り返り記入</p>	<p>振り返りシート</p>

授業実践の様子



ジェスチャーがわかりやすく、簡単なものだったので、すぐに覚えることができました。



私自身の異文化体験の話も交えて、エメリンの物語についてみんなで考えることができました。

【6】本時の振り返り

ジェスチャーゲーム中、驚きや、不満、戸惑う子どもたちの姿が見られました。ゲームを通して、自分が異文化に入り込んだときの疑似体験ができたと思います。言葉が通じない、ジェスチャーも違う、あたり前のことがあたり前でなくなる感覚を子どもたちに感じてもらうことができました。エメリンの物語は全部で5つのエピソードがありましたが、時間の関係上ひとつしか紹介できませんでした。しかし、この物語のエメリンが本校の卒業生であり、本校にも実際にたくさんの海外からの転校生や、外国につながるの生徒がいることから、かなり身近な話としてとらえていた生徒が多かったように思います。相手の立場に立って、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、お互いに話し合っていくことが大切なのだ子どもたちとともに考えることができました。

【7】単元を通じた児童生徒の反応／変化

- 言葉を使わずにコミュニケーションをとるのは難しい。
- 通じていたことが他のところに行く通じなくなったのは本当にあることだと思った。
- ひとつのジェスチャーで他人が解釈するレベル(内容)が違っていると気づいた。
- お互いに思っていることが違っていると誤解を生んでややこしくなってしまった。
- 誤解があったときは、まずは相手に聞いてみるのが大事だと思いました。
- カルチャーショックはすごく傷つくことなんだと思った。
- お互いを知らなかったせいで、思ってもいない感じで受け取られてしまったので、お互いのことを知ることは大切なのだと思う。
- 私たちがその文化を知っていればそういった誤解を生まなくてすむので、知れてよかった。
- 普通だと思っていたことが実は違ったということはよくあると思う。
- 文化が違うと誤解があって、ちゃんと話すことが大事なんだと思った。
- 意味のとらえ方が違うことでお互いいやな気持ちになってしまうと思った。

単元を通じ変容した生徒の態度や学習意欲

授業の振り返りでは伝えることの難しさや、大切さに気付けたという感想が多くみられました。活動の様子を見ても、どの生徒も、最後までコミュニケーションをとることをあきらめずに、相手や状況を理解しようとする姿勢が見られました。遠い異国や文化の違いとしてとらえるのではなく、自分事として身近にとらえ自分たちの日常に置き換えて考えることができました。

途上国・異文化への意識の変容

(授業前)

私が英語科なので、英語を教えるにあたって日ごろ感じることは英語に限らず、外国語を話すのが苦手、言葉の通じない外国人とコミュニケーションをとるのは難しく、できるだけ避けたいとと思っている生徒が多いと感じます。英語を話す必要性についても、自分たちが今後海外に出ることもなく、日本の現在の環境が当たり前が続いていくとと思っているような発言が見受けられます。

(授業後)

異文化というよりは自分たちの身近な出来事ととらえてくれたように思います。本校ならではの多文化的環境もあるからかもしれませんが、お互いを知ることの大切さを感想に書いている生徒が多かったです。

【8】自己評価

1. 苦勞した点

ジェスチャーゲームで、必ず覚えたジェスチャーを使うこと、に絶対に話さないことという指示を出しましたが、どうしても話してしまう子や、うなずきや首ふりなど違うジェスチャーを使ってしまう子どもがでてしまい、ルールの徹底が難しかったです。また、席の移動や人数、生徒の組み合わせを考えるのも、アクティビティを成り立たせる上で苦勞しました。エメリンの物語では、話し合いや意見がなかなか出せない班もあり、もっと良い発言の引き出し方を考えないといけないと思いました。

2. 改善点

ジェスチャーゲーム2回目のカードをもっとわかりやすい、当たり前でできたり、できなかったりするものに変えたほうがより、違いを出しやすかったです。ジェスチャーゲームに時間をかけすぎずに、エメリンのエピソードも一つだけではなく、最低でも2種類は紹介して、各グループで共有できたら良かったです。

3. 成果が出た点

子どもたちが日ごろ意識したこともないジェスチャーや言葉の違いに目を向けさせることができました。当たり前や慣習になっていることを違った角度から見ることで、国や文化の違いだけでなく、ひとりひとりの個性や立場を尊重することの大切さについて考える機会を作ることができました。

4. 備考

今回このワークショップを作るにあたり、大きな課題となったのは汎用性でした。もともと、英語の授業で取り扱う予定でしたが、道徳担当からの依頼もあり、急遽道徳用に作り替えました。

また、学校やクラスの状態にも配慮して、本校の生徒向きに教材や発問を工夫しました。授業を考えていく中で、当初の目的であった汎用性のあるワークショップを作れたように思います。いつでも、どこでも、だれでも取り扱えるようなわかりやすいガイダンスが必要だと思います。

参考資料：『きり道徳』正進社

添付資料：ロールプレイカード、ワークシート①、イラストカード、ワークシート②(道徳教科書の漫画)

山本エメリン、11歳で初めて日本に来た時のカルチャーショック

実例にあった話

ロールプレイ：Aは海外から転校してきた生徒 Bは一般生徒 Cは先生

1 文化

友だちと語っていた時、一生懸命考えていることを伝えおうとしたら、相手が怖い顔を始めた。

転校生A：「今日は先生の誕生日だからみんなでサプライズしない？『チッ』(舌打ちをする)」
 生徒B：「？」(舌打ちされた？首をかしげる)「いいね、なんの曲にする？」
 生徒B2：先生が入ってきたら、パーマデーソングをみんなで歌おう！
 転校生A：『チッ』「いいね！やろう！」
 生徒B：「みんなで練習しない？」
 転校生A：『チッ』
 生徒B2：「ねえ、やりたくないならそう言ってよ。みんな行こう。」
 転校生Aを残して、みんな出ていく。

みんなが考えた理由(どうしてこういうことになったのでしょうか？)

理由：ブラジルでは舌打ちをして『チッ』の音を出すことが普通で、無意識でしている時がほとんど。日本のようにイライラしているときや、むかつくときには使いません。ブラジルでは考えている時、何か思いだした時、予感が当たった時などに舌打ちします。

山本エメリン、11歳で初めて日本に来た時のカルチャーショック

実例にあった話

ロールプレイ：Aは海外から転校してきた生徒 Bは一般生徒 Cは先生

1 文化

初めて日本の学校に行き、学校に入った瞬間先生に怒られて、なぜ怒られているか分からなかった。

チャイムB：キーンコンカンコンコン
 転校生A：「ここが学校かー、ここが入口かな？」中に入る
 「あれ？だれもいないなー。」
 先生C：「あら？あなたどうしたの？遅刻ですよ！」
 転校生A：「え、なんかいきなり怒られた！なんで怒られているんだろう？」
 先生B：「あら、外観のままじゃない？うわばきにはきかえなさい！」
 転校生A：「うわばきって何？どうしてこの先生怒っているの？怖い！」

みんなが考えた理由(どうしてこういうことになったのでしょうか？)

理由：先生は私が海外からの転入生だったことを知らなかった。私も日本の学校に入るために上履きと着る靴に交換しないといけないのを知らなかった。さらに、ブラジルでは時間通りにくるということとは言われた時間にその場所に着けばいいので、日本で言う5分前集合を知らなかった。

山本エメリン、11歳で初めて日本に来た時のカルチャーショック

実例にあった話

ロールプレイ：Aは海外から転校してきた生徒 Bは一般生徒 Cは先生

4 文化

初めて日本に来て、友達を作れたかったのでフレンドリーに接していたら、どんなみんながはなれたいって、怒っている雰囲気にもなった。

転校生A：「あの子と同じ教室の人だ！あいさつに行こう！(ハグしようとする)」
 生徒B：「え、何？いきなりだきつこうとしてきた。」
 転校生A：「あれ？なんでさけるの？」
 生徒B：「やめてよ。(逃げる)」
 転校生A：「みんなに逃げられた。わたしくさいのかな？」

みんなが考えた理由(どうしてこういうことになったのでしょうか？)

理由：自分の国では相手と会った時に抱きしめたり、話している時にボディタッチ(髪、肩、手に触ったりする)したりするのが普通なので、自然に出でしまった。特にあいさつは初めて会った人でも、ハグをしてほほにキスをします。

山本エメリン、11歳で初めて日本に来た時のカルチャーショック

実例にあった話

ロールプレイ：Aは海外から転校してきた生徒 Bは他の生徒 Cは先生

3 言葉の意味

国語教室で先生に日本語を教えてもらっていたとき、私の答え方に先生が怒り始めた。

先生C：「今日は今までの復習をしましょう。先生の質問に答えてください。」
 Bさん、あした何をしますか？
 生徒B：「友だちと買い物に行きます。」
 先生C：「B2さんはあした何をしますか？」
 生徒B2：「あしたは家族と映画を見に行きます。」
 生徒C：「そうですか。Aさんは明日なにをしますか？」
 転校生A：「知りません！」
 先生C：「知りませんか？どうして自分の予定を知らないの？」
 転校生A：「知りません！」
 生徒C：「そんなわけないでしょう！」

みんなが考えた理由(どうしてこういうことになったのでしょうか？)

理由：ポルトガル語では『知らない』と『分からない』は同じ言葉を使います。日本語の『わかりません』と『知りません』の意味のちがいがわかっていなかったたので、なんでも『知らない』と答えてしまい、相手に嫌な印象を与えてしまいました。

山本エメリン、11歳で初めて日本に来た時のカルチャーショック
実際にあった話

ロールプレイ：Aは海外から転校してきた生徒 Bは一般生徒 Cは先生

5 言葉の意味

学校内で「ある言葉」をたくさん聞いたので、学校の中に孤児院のような場所があると思って、探しましたがなかなか見つからなかった。

生徒 B：先輩！こんにちは！
 生徒 B2：先輩、話があります！
 生徒 B3：先輩、元気ですか？
 転校生 A：えーみんなはセンパイなんだー。大変だなー。
 学校に住んでるのかな？
 部屋はどこかな？探してみよう！
 (教室を見て回る)
 見つからない！不思議な学校だ！

みんなが考えた理由(どうしてこういうことになったのでしょうか?)

理由：母国語では『先輩』の意味はSEM『お父さん』なので、『親がいない』と言うことだと思いました。親がいない生徒たちが住んでいる場所が学校の中にあると思いました。

2学年 道徳

2年組 番号前

今日の道徳で気づいたこと、感じたことを書いてください。

①ジェスチャーゲーム

②エメリンのカルチャーショックの話

③マンガ 日本人の知らない日本の良さ

 上手に歌うこと	 おどること	 スキーすること	 スケートすること	 縄跳びすること
 泳ぐこと	 料理すること	 ジャンプすること	 速く走ること	 お手玉すること
 絵を描くこと	 一輪車に乗ること	 自転車に乗ること	 ぞうじすること	 ゴルフすること

 柔道すること	 剣道すること	 リコーダーをふくこと	 ピアノをひくこと	 ギターをひくこと
 ドラムをたたくこと	 アコーディオンをひくこと	 バイオリンをひくこと	 将棋をすること	 けんだますること
 バドミントンすること	 野球すること	 サッカーすること	 卓球すること	 バレーボールすること



道徳教科書『きらり道徳』正進社P90～97より

表彰式に参加しよう！

～ “ 当 たり 前 ” っ て な ん だ ろ う ～

氏 名	齋藤 若菜	学 校 名	横浜市立南高等学校附属中学校
担当教科	国語	実践教科	道徳(総合的な学習の時間含む)
時間数	9時間	対象学年	中学3年
		人 数	40名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標

◎個人と個人の間にある“当たり前”の違いに気づき、違いを前向きに捉えられるようになる。

【多面的・多角的な見方へ広げる】

個人の行動の背景にある様々な見方・考え方に気づき、自分の見方・考え方を広げ深める。

【自己を見つめ、考えを深める】

気づいたことをもとに、自分はどうかであるかどうか考えるかなどを振り返り、考えを深める。

【2】単元の評価 規準例

B-9 相互理解・寛容	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。
C-18 国際貢献・国際理解	世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。

【3】単元設定の理由

✓ 児童／生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観

SGH(スーパーグローバルスクール)に指定されている南高等学校の附属中学校である本校では、日頃から国際感覚に訴える機会が数多く設定されている。中学校3年生では、修学旅行の位置づけであるカナダ修学旅行が実施され、現地でホームステイや一日留学などを行うが、その際にただ漠然と日本と外国との違いを感じるのではなく、違いを見つめる視点をもって感じ考えてほしいという思いで本単元計画を作成した。また、1年次には週に一度行う道徳の授業で『世界がもし100人の村だったら』をプリントで読み、世界の中の日本について考え、2年次には『世界がもし100人の村だったら』のワークショップをアレンジして「附属中40人村を作ろう」を行った際には、「自分が(役割カードの人物に)なりきることで、いつも先生に聞いていた話が他人事ではないのだと感じた。」「自分でやってみると、ただ読んだ時とは違って自分たちの生活とのとても大きな違いがわかった。」という生徒の振り返りを受け取った。今回の学習でも、教師自身の経験をもとにしたワークショップを通じて、生徒に疑似体験してもらい感じ考えたことが、その先にある生徒たち自身の新たな体験への第一歩となることを願う。特に、担当学年である本校の中学3年生に向けては、高校進学に際して“外国”に対する偏ったイメージや知識を植え付けたくないよう、知識ではなく異文化への視点の向け方や違いの捉え方、それらが国際社会だけではなく身近なところにも生かしていることを念頭に置いて、国際理解の指導と相互理解の指導を並行して行っていきたい。

実際に本時の授業を行う時期には、中学校の一大行事であるカナダ研修旅行を終え、自国の文化や自分の家庭、個人の“当たり前”が当たり前ではないと気づく場面に遭遇した生徒も多いことが想像できる。今後高校・大学への進学を経て、国際社会に足を踏み入れていくであろう彼らが、国や人種だけではなくより身近なところにまで目を向け、自分とは違う“当たり前”を持つ人々を受け入れ、互いに思い合いながら生活できることを願う。良い面にも悪い面にも捉えられる日本人社会の同調圧力のなかで、違いを認め合い、違いがあることを楽しめるような生徒に育ててほしい。集団の中で、“自分の当たり前が周囲の当たり前と異なる”(マイノリティになる)ことを体験するワークを通じて、身近な多文化共生について感じ、考える。

【4】展開計画(全9時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 2 3 4	<p>【カナダ研修旅行 事前学習】</p> <p>○日本とは違う、カナダの文化や歴史について知る。</p> <p>○異文化に触れる際にどのような視点(見方や考え方)をもつかを考える。</p>	<p>・カナダへの研修旅行の事前学習として、大テーマ「カナダの文化・習慣」について、班(4人)ごとに小テーマを設定し、調べ学習を行う。一人一枚ポスターにまとめて発表交流。(ファーストネーションや多文化社会についてや、複数の言語の共存、日本とのマナーや習慣の違いについて考える。)</p> <p>・“異文化に触れる際にどのような視点をもつか”というテーマで、教師の留学体験や旅先でのトラブル、ブラジルでの気づきをもとにした講話(?)の実施。(初めての海外渡航を控える生徒も多いなか、教師がブラジルで体験したアブラソ(抱擁)の文化への驚きや、日系ブラジル移民1世の方々の経験について話をする。)”異文化(≠知らないもの)”への漠然とした不安や恐怖を、どのような見方・考え方をすれば克服し、楽しむことができるのかを考える。</p>	写真(パワーポイント)
5 6 7 8	<p>【カナダ研修旅行 事前学習】</p> <p>○感じたことや考えたことを整理し、英語で発表する</p> <p>○視点をもとにカナダ研修旅行を振り返る。</p>	<p>・印象に残ったこと、感じたことを整理して、英語を使ってポスター一枚にまとめ、一人●分程度のプレゼンテーションを行う。</p> <p>・事前学習時に話していた視点をもとに、彼らが外国の文化のなかに身を置き驚いたり戸惑ったりした文化・習慣の“違い”に焦点を当てた振り返りを行う。</p>	<p>写真(パワーポイント)</p> 
9 本時	<p>【道徳】</p> <p>個人と個人の間にある“当たり前”の違いに気づき、自らの日常に引き寄せて考える</p>	<p>・集団の中で、“自分の当たり前が周囲の当たり前と異なる”(マイノリティになる)ことを体験するワークを通じて、身近な多文化共生について感じ、考える。</p>	<p>パワーポイント 資料①ワークシート 「表彰式に参加しよう!」 資料② 「表彰式の案内～招待状～」 資料③ワークシート 「表彰式の参加計画」(班用) 資料④【役割カード】 資料⑤※役割セリフカード 資料⑥【あたりまえカード】</p>

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)		
導入 (7分)	○本時の活動について				
	<p>日常生活やカナダ研修旅行(修学旅行)を通じて感じた“違い”(自分の当たり前が周囲の当たり前と異なる経験)とその時どのように行動したかを想起する。</p> <p>・カナダ研修旅行を思い出しながら“初めの考え”を記入する。 ※看板や学校の制度などにとどまらず、内面的な違いも考えられるように</p>			<p>パワーポイント 資料①ワークシート 「表彰式に参加しよう!」 (個人用)</p>	
展開 (35分)	<p>各役割になりきって班で話し合い、「表彰式の参加計画」を立てる。</p> <p>・【役割カード】(※セリフカードもセット)と表彰式の案内を見ながら、話し合いのルールを理解する ①カードをほかの人に見せないこと ②カードに書かれた情報をもとに、その人になりきって話し合うこと。 ③時間内で計画を立てること。 ④全員が納得するように話し合うこと。</p> <p>・表彰式の参加計画を見ながら、4つの項目に分けて、各項目3分で話し合いをする</p>			<p>・生徒がカードをもとに役割を演じられるように机間巡視を行う (国籍など、カードと実際のコンプレックスが重なり嫌な思いをする生徒がいないことを確認する)</p> <p>各項目で必ず全員の意見を聞くことを意識させる。各項目の制限時間は3分程度。タイマーで計る。</p>	<p>パワーポイント 資料①ワークシート 「表彰式に参加しよう!」 (個人用) 資料②「表彰式の案内～招待状～」 資料③ワークシート 「表彰式の参加計画」 (班用) 資料④【役割カード】 資料⑤※役割セリフカード</p>
	<p>各班で決まった計画と話し合いで感じたことを発表する。(班内→板書で全体共有)</p> <p>・代表者は、班で決まった計画を全体に発表する。班員はワークシートの②を記入する。</p> <p>・クラス全体で計画を共有し、なぜそのように決めたのかを考える →悩んだ項目や自分の班の計画と違うところを</p>			<p>予想される感じたこと 「絶対意見が違うから難しい!」 「急に掃除しないとか意味分からない!」 「なんで13時半に集合できるんだよ!」 →個々の違いの背景を考慮しないマイナスの発言もあることに気づかせる</p>	<p>パワーポイント 資料①ワークシート 「表彰式に参加しよう!」 (個人用) 資料③ワークシート 「表彰式の参加計画」 (班用)</p>
	<p>【あたりまえカード】を読んで、各役割の“違い”が生まれた背景を知り、感じたことを班で話し合う。</p> <p>・ワークシートの③を活用して自分の感じたことを整理する</p> <p>・班のなかでこの背景(【あたりまえカード】の情報)を事前に知っていたらどのような話し合いになったかを話し合う。</p> <p>・実際に教師の感じた日本やブラジルでの“違い”(自分がマイノリティであると感じたこと)を聞き、自分に引き寄せて考える。</p>			<p>・【あたりまえカード】はあくまでも架空人物の例であることを伝える。</p> <p>・一人で読んだ後、班の中で共有させる</p> <p>→水泳の話、ブラジルでの自分の困惑、日系ブラジル人の体験談</p>	<p>パワーポイント 資料①ワークシート 「表彰式に参加しよう!」 (個人用) 資料⑥ 【あたりまえカード】</p>
	<p>今までに感じた“違い”(自分の当たり前が周囲の当たり前と異なる経験)を再度想起し、自分や他人の“違い”に出会ったとき、どのように振る舞っていきたいか考える。</p>				

まとめ (8分)	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことをワークシートの④・フリースペースに記入する。(学びの記録) 	生徒の実際のコンプレックスに触れすぎないように注意する。(班で共有などさせずに、自分で考え深めさせる)	パワーポイント資料①ワークシート「表彰式に参加しよう!」(個人用)
-------------	---	---	-----------------------------------

授業実践の様子



演じた役のもつ背景を知って、改めて考えたことを個人で考える



それぞれが感じ考えたことの共有



全員が同じタイミングで次のワークに移れるよう、視覚的な機器を活用

【6】本時の振り返り

授業計画時に想定していたよりもずっと積極的に楽しく取り組むことが出来た。特に、ひとつひとつの活動が進むたびに生徒から返ってくる反応に、生徒自身が実際に体験して考えることがいかに大切であるかを痛感した。

生徒の振り返りを受けて、彼らがワークショップを通じて得た「違い」をみつめる視点」が少し変化したことや、感じたことをジブンゴトとして捉え直し、自らの日常に引き寄せて考えることができたことを大変うれしく思った。

来年にあたる2019年にはラグビーワールドカップが、2020年には東京オリンピックが日本で開催される。いつにもまして世界からの注目が集まる日本に生き、多様な文化に触れるチャンスに溢れた生活を送ることのできるこの時期だからこそ、多文化と共に生きることについて日頃から考える機会や「違い」を前向きに楽しむことのできるような前向きな気持ちを、生徒たちとともに持ち続けていきたいと思う。

【7】単元を通じた児童生徒の反応／変化

【迫真の演技で白熱した話し合い直後の感想】

「どれも意見が一致しないじゃん！こんなじゃ決まらない！」

「なんでだよー！妥協案出してらんだから少しは譲れよ…」

「だれも譲らないから面倒くさい」「自分も含めて妥協できない性格の悪い人ばかり」という声。

【ブラジルで体験したエピソードを交えながら、

演じてもらった人物が周囲と違う当たり前を持っていた背景を伝えた後の感想】

「最初からそれ知っていたら譲ったり説明したりもっと別の案を出したりしたのに…」

隣の子の手を握って謝るような場面も見かけ、背景を知ろうとせずに関わり込みで話をしてしまったことへの後悔が伝わってきた。

【振り返り用紙の記述】

- 人間って一人ひとり当たり前が違うし、それがその人の住んでいる地域特有のものだったりするから、いろいろ考慮して人と接しなければいけないな～と思った。人それぞれの違いを、否定的に捉えるよりも、新たな意見・見方として自分の中に取り込んで成長出来たらいいな～と思う。自分の当たり前を押し付けない、寄り添う！
- 「当たり前」の違いは国の間だけではなく、もっと身近な個人と個人の間でもあるんだな～とゲームを通じて感じた。面白かった！
- 最初の役割カードを見たときは、理由がよくわからないことがあったけど、理由を知るとなるほどと思ったから、人と違うことがあったら周りの人がちゃんと話をきいてあげたり、自分から説明をしたりすれば嫌な思いをしなくてよくなると思った。
- あたりまえカードを読んで初めて、「だからか！」って気づいた。日常生活ではあたりまえカードはないから、自分で考えて気づけるようになりたい。
- みんな同じだと、それ以上ともに成長することが難しいが、違うと興味を持てたり視野が広がったりするのでともに成長しやすいと思う

*今日の授業で印象に残ったこと・感じたこと・その他自由記述

あたりまえカード読んで初めて、「だからみんなはこう言ってるのか」と気づいた。

日常生活ではあたりまえカードはないから、自分で考えて気づけるようになりたい。

最初の役割カードを見たときには理由がよくわからないことがあったけど理由を知るとなるほどと思ったから人と違うことがあったら周りの人がちゃんと話をきいてあげるのはいいけど自分から理由を説明すれば、嫌な思いをしなくてよくなると思った。

普段よりも断然和解が難しく、みんなが上手に気づけたり、妥協することで生活はうまくいってほしいなと感じました。団体生活で一人ひとりの生活はいろいろあるけど大切だと思います。たぶん成長していく段階で身につけてきたんだから、(知ってる)と思うと学校大事だなと思いました。

「あたりまえ」の違いは国の間だけでなく、もっと身近な個人と個人の間でもあるんだなとゲームを通じて感じたゲーム楽しかったです!!!!

誰か一人でも意地を張って意見を交わらないと、決定や和解がとてつ難いになってほうと感じた。ただ、意地を張って意見を交わらないと自分も悪いことではなく、どうしようもない違いや理解できないものもあり、いちばんはその人がいい人ということではないと感じた。大事なのは、その人の事情を理解し、それを踏まえて時に誰かが妥協することなのではないかと思った。

*今日の授業で印象に残ったこと・感じたこと・その他自由記述

違いを大切にすること難しい。

④ ※口頭で質問します。

同じ課題と終えるのにかかる時間が違いすぎて
(大抵私のかかる時間が長すぎる)「えー」と思った。
すごく悲しくなったけど、次はもう少し集中してやろうかな、
という刺激になる。
違いを感じる、良い意味で刺激を受けたいと思う。

*今日の授業で印象に残ったこと・感じたこと・その他自由記述

自分の当たり前と他の人の当たり前が違うことを
気にして生活したいと改めて思った。

④ ※口頭で質問します。

自分の当たり前と他の人の当たり前は「差」がある。
自分が当たり前で当たり前だと思ってるものが他の人にとっては「態度悪い」か「おかしい」か
思われてたりする。
逆に、他の人が当たり前で当たり前だと思ってるものが「自分には当たり前」
じゃないかもしれない。寄り合う!

*今日の授業で印象に残ったこと・感じたこと・その他自由記述

人間、一人一人当たり前が違うし、それがその人の住んでいる地域特有の
ものだから、いろいろ考慮して人と接しなきゃいけないなと思った。
人それぞれの違いを、否定的にとらえるよりも、新たな意見・見方(??)として
自分の中に取り込んで、成長でつながりたいなと思った。

「違い」は悪いことか

みんな同じだとそれ以上と成長が

ことに難しいが、違うと興味をもてたり

視野が広がったりするのでこれも

成長しやすい。

単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲

振り返り用紙に「やっぱり留学に行きたいと思いました!」という記述があった。該当の生徒に理由を聞くと、「前は日本じゃない場所で英語を勉強したいと思ったからだったけど、今は自分の持っている文化と違う文化の環境で生活してみたいと思ったから。」という答えが返ってきた。必ずしも、英語を勉強することが海外留学ではないこと、他の文化の中で違いに直面することを恐れることなく、それ自体を楽しもうとする発言を引き出したことは、今回の授業の成果であるといえるのではないと思う。また、日常生活において、「日本人は…」とひとくくりにする言い方をしたあとに、はっとした顔をするようになった。日本人というくりの中にも様々な違いがあり、日本人らしさとして語るにふさわしい内容なのかを一度考えるようなきっかけになったのだろうと思う。身近に引き寄せて、個人と個人の違いを受け入れるという観点では、多学年とのスポーツ交流の際などに、学級・学年を超えた文化や習慣の違いを認め、違いを前向きに楽しもうとする姿勢がみられるようになった。

途上国・異文化への意識の変容

(授業前)

外国＝英語圏の意識が強く、英語圏の国の文化はあこがれの対象になりがちだった。
日本と異国の文化との違いを漠然と捉え、高い興味を持っているため、英語の授業には前向きに取り組む。実際にカナダに赴いて体験した物理的・制度的な文化・習慣の違いについてはよく気が付く。

(授業後)

異国の文化との違いは、目に見えない感覚的・感情的なものも多いことに気づき、違いを知ることが互いの文化を理解し合うことへの第一歩であると考えられるようになる。きちんと自分自身が体験することによって、違いに気づけるような目を持ちたいと学びを振り返る生徒もおり、進路学習の中での「高校進学後の学習意欲」として、交換留学や語学研修プログラムへの参加や留学生の受け入れなどを口にする生徒も増えた。また、異国との間だけではなく、同じ環境で生活する周囲の人との間にも「当たり前」の相違があることに気づき、周りをよく見ようとする行動が増えたように思う。それによって、互いの違いのみならず、人の良いところや行動に気づく場面が増加し、日々の帰国学活で発表される「今日のピカイチ」では、より多くの生徒の名前や具体的な行動が挙がるようになった。

【8】自己評価

1. 苦労した点

外国に繋がる背景を持ち得る生徒への配慮や、偏った知識の教え込みに繋がらないように意識して授業を組み立てた。ワークショップを用いる際に、こちらが想定している国の文化を持つ人物の役柄を演じさせても、具体的に「〇〇の国の人です。この国では…」という背景の紹介をすることを避けた。

また、ロールプレイを苦手とする生徒や、役割カードの背景に重なる背景をもつ生徒への配慮として、ワークショップはあくまで役割を演じる場であり個人の事情とは異なることを伝えたくて、

【役割セリフカード】を用意した。

さらに、国際理解的指導に寄せず相互理解的指導に重点を置くことにより、個人的なコンプレックスに触れることへの配慮を行った。最後に身近に引き寄せて考える際には、四人班の形式で着席させていたが、個人的な内容のため人に見えないようにプリント記入をするよう伝え、安心して個人の経験や気づきを記述できるようにした。

限られた時間のなかでの授業展開には課題が残る。気づきをより深めるためには、この時間にとどまらず継続して気づきを思い出す機会を設ける必要があると感じた。

2. 改善点

学級事情に応じて、外国に繋がる生徒への配慮を考える必要があると感じた。【役割カード】や【あたりまえカード】に具体的な国名や地域名をあげて活動することも想定できるが、実際に個人の持ち得る外国との繋がり(背景)に触れる可能性がある。また、「〇〇という国はこうなんだ!」という偏った知識を与えかねない。発達段階や学級事情を考慮して、適切な形に改善して活用する必要があると感じた。

3. 成果が出た点

見えなかった相手との“違いの背景”を知ったときの子どもの表情の変化から、自分の発した言葉への後悔が読み取れた。異国の文化との違いは、目に見えない感覚的・感情的なものが多いことに気づき、違いを知ることが互いの文化を理解し合うことにつながるのだと気づいた生徒は大変多い。振り返り用紙の記述に、「気づけるようなひとになりたい。」などの、今後目指したい“グローバル人材”を意識した言葉が記されていたのは一つの成果だと思う。独り歩きしていた“グローバル人材”という言葉をより具体的に、自分の中で実感を伴って意識し、今後の生活や活動に生かしていけることを願う。

また、身近に引き寄せて、個人と個人の違いを受け入れるという観点では、多学年とのスポーツ交流の際などに、学級・学年を超えた文化や習慣の違いを認め、違いを前向きに楽しもうとする姿勢がみられるようになった。互いの違いのみならず、人の良いところや行動に気づく場面が増加し、日々の帰り学活で発表される“今日のピカイチ”では、より多くの生徒の名前や具体的な行動が挙がるようになった。

4. 備考

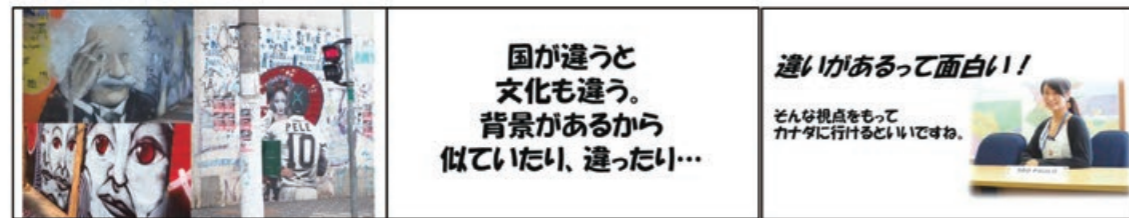
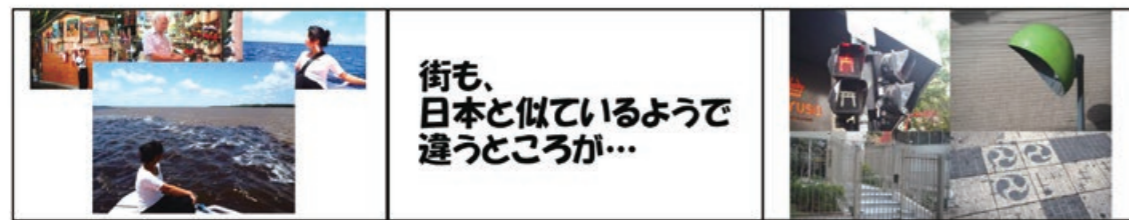
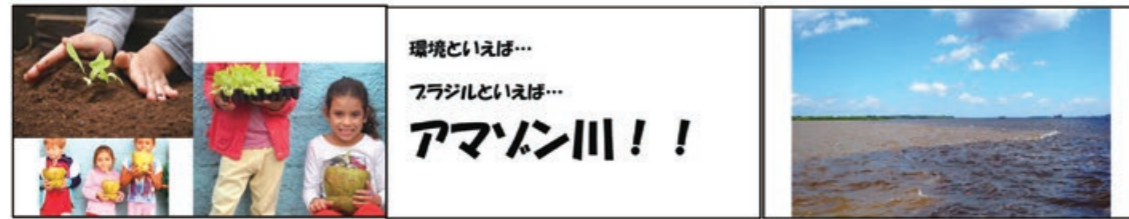
子どもたちと一緒に考え、一緒に気づく、一緒に学ぶ…を体験できた時間だった。活動の中で変化する子どもたちの表情や言動を目の前にして、たった50分でもきちんと気づきや考えの深まりがあることを実感し、このワークショップは今後さらに改善して、続けていきたいと感じた。また、ブラジル研修で毎日仲間と体験していた“知ろうとすること”や“気づきを共有すること”の大切さを、自分の大切な生徒たちと共有し考えることが出来たことを心から幸せだと感じた。

参考資料： 特別の教科 道徳サポートブック(横浜市教育委員会) / ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら」(開発教育協会) / 「開発教育ハンドブック 参加型学習で世界を感じる」(開発教育協会) / ブラジルの学校で撮影した動画

添付資料：【研修旅行事前・事後学習】●パワーポイント スライド一覧
【道徳授業】●パワーポイント スライド一覧 / ●資料① ワークシート「表彰式に参加しよう!」(個人用) / ●資料②「表彰式の案内～招待状～」(班用) / ●資料③ ワークシート「表彰式の参加計画」(班用) / ●資料④【役割カード】A～D(個人用) / ●資料⑤ ※役割セリフカード A～D(個人用) / ●資料⑥【あたりまえカード】A～D(個人用)

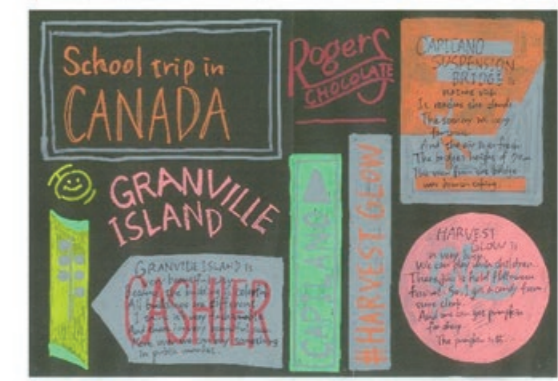
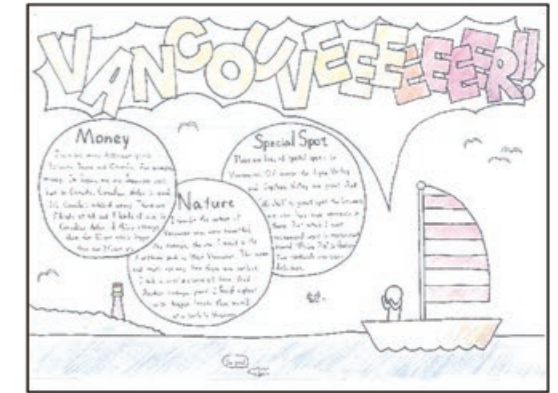
【研修旅行事前・事後学習】パワーポイント スライド一覧





生徒作品

(カナダ研修旅行で感じた違いについて)



パワーポイント スライド一覧

道徳リレー 表彰式に参加しよう!

3年()組()番 ()

回収するので必ず記入してください

① 初めの考え
「人と違うことで戸惑ったり悲しかったりしたこと」
「そのときどのように振る舞ったか」 カナダでは…?

② 話し合いながら計画を立ててみて
感じたこと、考えたこと

③ 【あたりまえカード】を読んで
感じたこと、考えたこと

④ ※口頭で質問します。

*今日の授業で印象に残ったこと・感じたこと・その他自由記述

道徳リレー 表彰式に参加しよう!

3年()組()番 ()

回収するので必ず記入してください

① 初めの考え
「人と違うことで戸惑ったり悲しかったりしたこと」
「そのときどのように振る舞ったか」 カナダでは…?

② 話し合いながら計画を立ててみて
感じたこと、考えたこと

③ 【あたりまえカード】を読んで
感じたこと、考えたこと

④ ※口頭で質問します。

*今日の授業で印象に残ったこと・感じたこと・その他自由記述

道徳リレー 表彰式に参加しよう!

3年()組()番 ()

回収するので必ず記入してください

① 初めの考え
「人と違うことで戸惑ったり悲しかったりしたこと」
「そのときどのように振る舞ったか」 カナダでは…?

② 話し合いながら計画を立ててみて
感じたこと、考えたこと

③ 【あたりまえカード】を読んで
感じたこと、考えたこと

④ ※口頭で質問します。

*今日の授業で印象に残ったこと・感じたこと・その他自由記述

道徳リレー 表彰式に参加しよう!

3年()組()番 ()

回収するので必ず記入してください

① 初めの考え
「人と違うことで戸惑ったり悲しかったりしたこと」
「そのときどのように振る舞ったか」 カナダでは…?

② 話し合いながら計画を立ててみて
感じたこと、考えたこと

③ 【あたりまえカード】を読んで
感じたこと、考えたこと

④ ※口頭で質問します。

*今日の授業で印象に残ったこと・感じたこと・その他自由記述

道徳資料

表彰式の参加計画書

※必ず全員で話し合って決めてください

- | |
|---------------------------------------|
| ① 集合時間
(:) に桜木町駅改札前集合 |
| ② 参加の服装
ピアスを (する ・ しない) |
| ③ 清掃活動
会場の清掃活動に
参加 (する ・ しない) |
| ④ 夕食
全員で夕食に (行く ・ 行かない) |

道徳資料

表彰式のご案内

～招待状～

南高等学校附属中学校 3 年 代表生徒 様

会場：横浜 MINAMI ホテル

(JR 桜木町駅より徒歩 5 分 / 地下鉄桜木町駅より徒歩 3 分)

時間：17:00 開場

17:30～18:30

服装：ドレスコードはございません
持ち物：招待状・生徒手帳
注意：必ず一度帰宅してからお越しください

※大変申しわけありませんが、表彰式終了後の 18 時 30 分より、会場の一斉清掃活動を予定しております。お時間のある方はご協力いただけると幸いです

*役割セリフカード

A

「みんなで行動したいから、必ず一つの意見にまとめようよ！」
「この前買ったお揃いのピアス、つけていきたいよね！！」
「みんなまでやれば掃除も楽しいよ！」
「帰りのご飯は一緒に食べないでそれぞれ家で食べようよ。夜遅くなっちゃうし、お金もないさ。」
★帰りのごはんだけは絶対にゆずっちゃうダメだよ！

B

「学校から家が遠いから、16:30以降にしか集合できないよ。」
「ピアスっておしゃれだね。せっかくの表彰式だからおしゃれして行こうよ。」
「えー！掃除なんて絶対したくないよ。」
「なんで私たちが掃除しなくちゃいけないのかわからないよ。」
家で話したらびっくりにされたらう！」
★掃除だけは絶対にゆずっちゃうダメだよ！！
「帰りのごはんはみんな一緒にがいいな。これが、一番楽しかったんだ。」

*役割セリフカード

C

「学校は早退せずに帰りの学活までで帰って、16:30に集合しよう！」
「表彰式にピアスをつけるなんて変だよ。正式な場でもなんぼ好きなんで失礼だよ！」
★表彰式はピアスをして、行くことだけは絶対にゆずっちゃうダメだよ！！
「普段からやっているし、招待状に書いてあるのだから掃除まで参加しよう！」
「代表として参加したのだし、このメンバーでお届けさせたいよね。」

*役割セリフカード

D

「学校を帰ってから十分に時間があるよ！！だから13時集合にしようよ」
「16時集合じゃ帰ってからの時間が短いよ！長い時間一緒にいるのが親友でしょ！！」
★13:00集合は絶対にゆずっちゃうダメだよ！！
「恰好はみんなでお揃いがいいな」
「使ったら掃除するのはマナーだよな。」
「できるだけ一緒にいたいし、夕飯も一緒に食べようよ！！」

【役割カード】 ※困ったら裏の*役割セリフカードを参考にしてください

A

- 意見をまとめるリーダー
- どのときにもみんなと一緒に行動したい
- 初めてみんなでおそろいのピアスをつけるのが楽しみ
- ごはんのメニューを選ぶのが大変だから人と一緒にごはんを食べたくない

B

【役割カード】 ※困ったら裏の*役割セリフカードを参考にしてください

- 家が遠いため帰宅してから遊びに行けるのは16:30以降
- 掃除をする意味がわからないから清掃活動には参加しない
- おしゃれをするのが大好き
- 表彰式後にみんなが夕食を食べに行くことが一番の楽しみ

【役割カード】 ※困ったら裏の*役割セリフカードを参考にしてください

C

- 小学校でも中学校でも運動部
- スルや不正な曲がったことが大嫌いなリーダー
- 学校の代表生徒として参加することへの責任感が強い
- 表彰式には失礼のないきもちとした恰好で参加したい

【役割カード】 ※困ったら裏の*役割セリフカードを参考にしてください

D

- 自由な時間ではできるだけみんなといたい
- 届には下校できるのだから13:30集合がいい
- 誰かとおそろいのものをつけるのが好き
- 人のためになるような活動には積極的に参加する

【あたりまえカード】

D 違い：**■**には下校できるのだから13:30集合がいい の背景

日本では、夕方まで勉強して部活やクラブ活動をしてから下校することが多いよね。でもブラジルなどの外国の学校は午前・午後の半日制だから、午前か午後のどちらかは自由な時間になるのが“当たり前”。日本に来ていてのをついつい忘れて自分の当たり前で話をしてしまったよ。ざぼりたいたいという意味ではなかったのだけれど…。日本の学校に通っている子からは羨ましいって言われることが多いけれど、ブラジルでは子どもがひとり外を歩くのはとても危険だから、親に送り迎えしてもらうものも“当たり前”だし、半日の自由時間には、親が迎えに来てくれるまで他の施設に遊びに行くこともあるんだよ。

【あたりまえカード】

A 違い：**□**ニューを選ぶのが大変だから人と一緒にごはんを食べたくない の背景

ベジタリアンやビーガンって知ってるかな？実は、肉を食べられないのが“当たり前”。私のいたアメリカなどの欧米の国では、草食専門のレストランやスーパーなども想像できないくらい多いところからみかけたのにな。日本に来てからは、自分と同じようなベジタリアンやビーガンをほとんど見かけないから、周りのみんなに言いだしづらくて…。日本ではベジタリアンやビーガンのためのメニューを用意しているお店なんてあまり見かけないし、お店選びなどでみんなに迷惑をかけたくなかったんだ。

【あたりまえカード】

B 違い：**■**掃除をする意味がわからないから清掃活動には参加しない の背景

ブラジルや南アメリカなど、学校や家で自分から掃除をすることなんてない国もたくさんあるんだ。日本人は、こみを落とすとしてしまったり自分だけで、自分の新しい靴を並べたりするよね？とっても不思議。私のいた国の“当たり前”では掃除をする仕事の人がいるから、自分でやってみようってその人の仕事を奪ってしまうことにも、周りの人に奇妙な目で見られたり笑われたりしてしまうよ。実は日本のように学校で清掃をする国は海外にはほとんどないんだよ。日本では身のまわりを自分で掃除することは学習活動の一環だけれど、他国だと清掃は職業になるからね。最近ではサッカーワールドカップの会場を清掃する日本人に対して、世界中から称賛の声が寄せられたというニュースも耳にしたし、これも日本の素敵な文化なのだろうね。

【あたりまえカード】

C 違い：**■**表彰式には失礼のないきききとした恰好で参加したい の背景

日本では、正式な場では服装を整えて“きちんとした恰好”をするのが“当たり前”。華美なお化粧やアクセサリーを避けるよね。中学生だと、制服にお化粧やアクセサリーをすることは“きちんとした恰好”とは呼ばないけれど、日本以外の国ではお化粧をしたりピアスつけたりして学校に行くことが“当たり前”の国も多いんだ。もちろん正式な場でも失礼にはならないから、付けていても誰も気にしないよ。でも、この話し合いでは、日本の考え方が通用しなくてびっくりしたね。日本人の礼儀を重んじる文化が高く評価される場面も多いよ。

【あたりまえカード】

D 違い：**■**には下校できるのだから13:30集合がいい の背景

日本では、夕方まで勉強して部活やクラブ活動をしてから下校することが多いよね。でもブラジルなどの外国の学校は午前・午後の半日制だから、午前か午後のどちらかは自由な時間になるのが“当たり前”。日本に来ていてのをついつい忘れて自分の当たり前で話をしてしまったよ。ざぼりたいたいという意味ではなかったのだけれど…。日本の学校に通っている子からは羨ましいって言われることが多いけれど、ブラジルでは子どもがひとり外を歩くのはとても危険だから、親に送り迎えしてもらうものも“当たり前”だし、半日の自由時間には、親が迎えに来てくれるまで他の施設に遊びに行くこともあるんだよ。

多文化共生

氏名	櫻木 萌季	学校名	神奈川県立横須賀光明高等学校		
担当教科	地理歴史	実践教科	国際関係(学校設定科目)		
時間数	6時間	対象学年	3年	人数	11人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標

- 文化・生活習慣の違いから生まれるトラブルを疑似体験し、外国につながるのある人達の生活に困難が伴う場合があることを認識することができる。
- 文化的な背景や社会的な背景を学ぶと、外国につながるのある人達の見方や受け止め方が変わること気付くことができる。
- 外国につながるのある人たちが異文化の中で生活することに困難が伴う場合があることを理解したうえで、外国につながるのある人の支援方法について考えることができる。

【2】単元の評価 規準例

(ア) 関心・意欲・態度	疑似体験やワークショップに意欲的に参加している。
(イ) 思考・判断・表現	疑似体験した時の感想や自分の考えを伝えることができる。
(ウ) 技能	外国につながるのある人たちが異文化の中で生活することに困難が伴う場合があることを理解したうえで、外国につながるのある人の支援方法について考えることができる。
(エ) 知識・理解	外国につながるのある人たちの文化的な背景や社会的な背景を理解している。

【3】単元設定の理由

✓ 児童／生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観

神奈川県立横須賀光明高等学校は国際科と福祉科からなる高校である。国際関係の授業を選択している生徒は全員国際科に在籍している生徒である。この授業を選択している生徒の中には外国とつながりのある生徒もいる。語学を学びたい生徒、世界の様々な諸問題を解決したい生徒、世界中を旅してみたい生徒が多い。

仲の良い生徒が集まっているクラスではないが、グループワークやレクリエーションをすると不思議と盛り上がるクラスである。

国際関係を選択している生徒の多くはほとんど進学先が決まっており、授業に対するモチベーションが最近では低くなっている。国際関係の授業は2時間連続の授業である。一方的に2時間話し続けているだけでは生徒はついてこない。2時間の中でグループワークやアクティビティなどを随所に織り交ぜていく必要がある。

本校の国際科では語学の授業や異文化を理解する授業が多い。この単元を通して、語学を学ぶことや異文化を学ぶことが多文化共生をする上で欠かせないことを気付いてもらいたい。

【4】展開計画(全6時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	【言語の壁を感じる】 言葉が話せないことの疑似体験をする	2人1組のペアを作る。シートを受け取った人は、シートに記載されている内容を相手に伝える。伝えるにあたって、言葉は一切使うことはできない。ただし、身振りや手振り、絵・数字の使用は可能である。相手はシートに書いてあることを推測し、紙に書く。シートの内容と書いた内容を見比べ、正しく伝わったかどうか確認する。ペアを変え同じことを合計3回する。伝える内容が2回目3回目になるにつれて難しくなっていく	人権学習ワークシート集Ⅳ－高校編第13集P44
2	【言語の壁を感じる】 話している内容を理解できないことの疑似体験をする	韓国の小学1年生の授業の動画を視る。生徒は、動画の中のクラスの一人になったと仮定し、クラスメイトがなぜ笑っているのかを推測する。	youtube 「韓国の授業参観1年生」
3	【言語の壁を感じる】 ①読めないことの疑似体験をする ②書けないことの疑似体験をする	①クメール語で書かれた手紙の内容を推測する。推測した内容とその根拠を発表する。 ②アラビア語を実際に書いてみる。	①人権学習ワークシート集Ⅳ－高校編第13集P45を編集して作成したワークシート ②人権学習ワークシート集Ⅴ－人権教育実践事例・指導の手引き(高校編 第14集)のP62～64を編集して作成したワークシート
4 本時	【文化・生活習慣の壁を感じる】 文化・生活習慣の違いから生まれるトラブルを疑似体験する。	別々の国の高校生が4人集まり、議論をするが文化や生活習慣の違いから意見が一致しないことを疑似体験する。 (下記参照)	役割カード 式典計画表 正体カード ワークシート (下記参照)
5	マイノリティーの気持ちを考える。	「Born with it」を視聴して、次の3点のことをグループで考える。 ①表情や言動から、この時の「ケイスケ君」「ケンタ君」「他のクラスメイト」「先生」はどのような気持ちだったか考える。付箋に書いて、模造紙に貼る。 ②この時、ケイスケ君が望んでいたことは何だと思うか。 ③あなたが小学校4年生の状態での教室の中の生徒の1人だったら、どのような行動をとれたらよかったと思うか考える。	youtube 「Born with It Film School Shorts」 「Born With It - Japan Cuts 2016」
6	異なる言葉・文化・習慣を持つ人たちと共生するためにはどのようにすればよいか考える。 本単元の振り返り	横須賀光明高校のよくある1日のタイムスケジュールを配布する。時間ごとに留学生が「困ってしまいそうなこと」は何かを考える。それに対して自分自身ができることを時間ごとに考える。 アンケートの記入	人権学習ワークシート集Ⅵ－人権教育実践事例・指導の手引き(高校編 第15集)のP53を編集して作成したワークシート アンケート

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 5分	くじ引きで4人1グループをつくる。各グループにA・B・C・Dの役割カードを配布する。場面設定を説明する。 <場面設定> A国とB国とC国とD国にある4つの高校は姉妹校協定を結び、4校合同姉妹校提携記念式典が開かれることになった。式典の前に、A～D国の中から各学校の生徒が4人で1グループをつくり、グループ通話で式典の予定を計画することになった。	・机はきちんとくっつけるよう指示をする ・役割カードの中身を他の人には絶対に見せないことを伝える。	役割カード (下記参照)
展開 35分	各グループに1枚式典計画表を配布する。 次の①～④の項目について、グループで話し合う。1項目につき、制限時間は3分。 ① 行き方(大人の同伴がいるかいないか) ② 式典の服装(露出度が高い服か低い服か) ③ 食事メニュー(和食か洋食か) ④ 会場の掃除(するかしないか) ワークシートを配布する。 ワークシートの課題①(話し合いを通して、あなたが感じたことは何ですか)を記入する。 ワークシートの課題②(ABCDはどこの国の人だと思う)を記入する。 正体カードを配布する。自身と他のグループのメンバーの高校生がどこの国の出身の人物なのかを知る。A→B→C→Dの順で、正体カードに記載している内容を他のメンバーに伝える。 教員がABCDの人物の文化的背景や社会的背景を体験談や生写真を用いて伝える。	ワークシートの課題①は パワーポイントで示す。 ワークシートの課題②は パワーポイントで示す。 正体カードのイラストが他の3人に見えるように、説明文を自分が見えるように折るように指示をする。 文化的背景と社会的背景がその国のすべての人にあてはまるわけではないことを補足する。	式典計画表 (下記参照) ワークシート (下記参照) 正体カード (下記参照)
まとめ 10分	ワークシートの課題③「もしはじめから相手の正体カードの内容を知っていたら、あなたはどのようなことを意識して話し合いをしていましたか?」を記入する。 ワークシートの課題④「今日のワークショップを通して、得られた新たな気づき、発見など。」を記入する。 ワークシートを回収する。	ワークシートの課題③は パワーポイントで示す。 ワークシートの課題④は パワーポイントで示す。 教員の方からあえてこのワークショップのねらいや答えは伝えない。	

授業実践の様子



【役割カード】



【授業実践の様子 1】



【授業実践の様子 2】



【授業実践の様子 3】

【6】本時の振り返り

授業が始まると、役割カード（上の写真左上）の役になり切りわきあいあいと議論していた。拍手することを指示しなかったにもかかわらず、グループ内や教室内で意見を共有する場面では自然と拍手が出た。

【7】単元を通じた児童生徒の反応／変化

〈本単元の最後に実施したアンケートの内容より抜粋〉

- ・「この6回の授業で異文化の本当の大変さを知ることができました。自分が伝えたいことや話したいことが伝わらないつらさや悔しさがとてもイライラしてストレスになりました。今、日本にいる外国人の人ってすごいんだなと思いました。私が6時間で悔しいと思ったことを苦ともせずに学校で勉強したり、仕事をしたり、立派だと思います。」
- ・「文化や習慣が違うと考え方も丸っきり違った。その上で言語も違うとうまく話し合いができなくて、苦労するし、お互いにストレスが溜まってしまふなど、授業での体験を通して感じる事ができた。」

- ・「それぞれ国によって文化や習慣、言語などは違うため、自分の国で当たり前でできていたことができないこともある。言葉が通じないと生活する上でとても困ると思った。自分が伝えたいこと、考えていることが伝わらないのはとてもつらいことだと思った。今回の疑似体験を通して、外国人が日本に来た時の気持ちが少し分かった気がした。私自身も外国に行ったら、慣れるまでとても苦労すると思った。また、文化、習慣が違うと国と国とで衝突すると思った。それぞれ国の習慣などをよく理解し、ゆずれ合うことも大切だと思った。」
- ・「言葉が通じるということがありがたいことだと改めて感じた。自分でできたことが、言葉が通じないとできなくなってしまう。大人でもいいから助けてくれる人がいるとありがたい。まじとかに、文字だけじゃなく、イラストなどを加えれば日本語も英語も話せない人でもわかりやすいし、暮らしやすくなると思った。もっと色々な国に関心を持って、少しでもその文化を知っていれば言葉が通じなくても多少は理解できるようになると思った。」

単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲

〈本単元の最後に実施したアンケートの内容より抜粋〉

- ・「今の学校とかはグローバル化が進んでいて、外国人さんとかがいる環境があたりまえになってるけど、まだまだグローバル化が進んでいないところもあるから、異文化理解をもっと授業とかでやっていけるようにしていくことが大切なんだと思った。」
- ・「他の国の文化・習慣は元々興味があったのでその国のことを学べて良かったし、新たに自分のなかで発見があったから楽しかったです。もっと他の国のことが知りたいし、理解したいと思いました。」
- ・「これからもっと異文化を感じるが多くなると思う。異文化のことを受け入れ、たくさんの人と分かり合えるような人になりたい。」
- ・「自身が海外に行った時、努力できることは何だろうと思いました。人に頼りすぎず、自分で頑張れることは手を抜かず、学べることはたくさん取り込みたいと思います。拒むのではなく受け入れることが、共生するための一歩だと思います。」

途上国・異文化への意識の変容

(授業前)

〈本単元の最後に実施したアンケートの内容より抜粋〉

- ・「今回の授業を通して、まだまだ異文化に対して、理解してないなと思った。」

(授業後)

〈本単元の最後に実施したアンケートの内容より抜粋〉

- ・「これからはもっと異文化を学んで外国の文化や習慣を理解していきたいと思う。」

【8】自己評価

1. 苦勞した点

本年度の教師海外研修参加者のうち、高校教諭は私のみで他はみな小学校・中学校の教諭であったため、小中生向けのワークショップに傾いている印象を受けた。オリジナル版にアレンジを加えて授業実践をしたところ、結果的には成功したが、正直高校生に通用するのかどうか終始不安であった。授業開始までは、授業案を直前まで試行錯誤していたので苦勞したが、授業が始まってからは生徒を動かすだけなので特に苦勞した点はない。

2. 改善点

改善点は次の3点である。

- ①場面設定に必然性を持たせること。4校合同姉妹校提携記念式典やグループ通話の設定に無理があったことは否めない。
- ②ドイツ人についてはインターネットで調べた内容であり、自身の体験談やインタビューが一切反映されていないこと。横浜市の都筑区にドイツ人多く住んでいるので、インタビューをしたい。
- ③時間が足りなかった。ワークシートの課題①～④を記入した後、グループ内と全体での発表に時間を割くつもりであったが、時間がなくほとんどできなかった。残す部分と削る部分を厳選していく。

3. 成果が出た点

生徒が記入したワークシートの課題③から「相手の宗教等や文化を理解したうえで意見を言うし、相手の考えも受け入れることができたと思う。」や「文化とかを知っていたらもっと会話で相手に対する配慮をできていたと思うし、意識して話すことができていたと思う。事前に知っていたならその国について調べてから話しあうこともできた。」などの回答を得ることができた。授業実践の目標を達成することができ、一定の効果を得ることができたワークショップだったと思う。

参観してくれた管理職をはじめとする先生方から高い評価をいただいた。「あたり前グループ」の中でも私の授業実践をベースに、来年2月の最終報告会のワークショップを作っていくことが決まった。

4. 備考

2018年9月15日(土)にワークショップを実演し、K-DEC、鶴見国際交流ラウンジ、教師海外研修の過年度参加者の方々からフィードバックをもらった。有識者や先輩方からのアドバイスが大いに活かされたワークショップだった。

参考資料：●人権学習ワークシート集Ⅳ－人権教育実践事例・指導の手引き(高校編 第13集)のP44とP45
●人権学習ワークシート集Ⅴ－人権教育実践事例・指導の手引き(高校編 第14集)のP62～64
●人権学習ワークシート集Ⅵ－人権教育実践事例・指導の手引き(高校編 第15集)のP53

【youtube】

- 韓国の授業参観1年生
- Born with It | Film School Shorts
- Born With It - Japan Cuts 2016

【イラスト】

- かわいいフリー素材集いらすとや
- 参考URL(<https://www.irasutoya.com/search/label/%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%82%BA>)

添付資料：ワークシート、式典計画表、役割カード、正体カード

式典計画表

式典計画表

① 行き方

--

② 式典の服装

--

③ 食事メニュー

--

④ 会場の掃除

--

*グループ通話の時間は限られています。
必ず決めてください！

ワークシート

ワークシート

課題①

課題②

A	B	C	D
---	---	---	---

課題③

課題④

3 年 組 番 氏名 _____

役割カード

＜役割カード＞ 左が内側 右が外側

【 役割カード C 】

＜性格＞ リーダーシップがとれ、活発に議論できる。自分の意見を通す力がある。

1. 外出は大人がいる方が望ましいが、子どもだけでもよい。
2. 原の露出は絶対に嫌だ。
3. 豚肉は絶対に食べたくない。
4. 掃除はしない。

*このカードは他の人には絶対に見せないこと！



【 役割カード D 】

＜性格＞ リーダーシップがとれ、活発に議論できる。自分の意見を通す力がある。

1. 外出は大人がいる方が望ましいが、子どもだけでもよい。
2. 服装にそこまでのこだわりはない。
3. 豚肉は絶対に食べたくない。
4. 掃除はしない。

*このカードは他の人には絶対に見せないこと！



【 役割カード A 】

＜性格＞ リーダーシップがとれ、活発に議論できる。自分の意見を通す力がある。

1. 子どもだけで外出できる。
2. 服装はどちらかといえばかっちりしている方がよい。
3. 何でも食べることができる。
4. 掃除はする。

*このカードは他の人には絶対に見せないこと！



【 役割カード B 】

＜性格＞ リーダーシップがとれ、活発に議論できる。自分の意見を通す力がある。

1. 大人がついていないと外出はしない。
2. 開放的なファッションが好き。
3. 肉が大好き。肉を食いたい。
4. 掃除はしない。

*このカードは他の人には絶対に見せないこと！



B



【 正体カードB 】

私はブラジル人。女性よ、
ブラジルは治安が悪いわ。私の住むサンパウロは交番ができて、犯罪率が低下したけどそれでもまだまだ怖いわ。子ども1人じゃ外出なんてできない。
露出度の高い服は好みね。リオのカーニバルを見たことがあるでしょ？
私は肉が大好き！シュハスコは最高よ！
私は学校で掃除なんて絶対にしないわ。学校は学ぶ場所。掃除をする場所じゃないわ。掃除は清掃業者がやればいいのよ。

A



【 正体カードA 】

私は日本人です。男性です。
日本はとてとても治安の良い国です。子ども達だけで遊んだり、外で遊んだりします。不審者はいるけど、命の危険にさらされることはほとんどありません。夜遅くまで遊んでいる時に警察に見つかると「早く帰りなさい！」って怒られます。
みんな面白い思い好きな服を着ています。和服を着ている人はあまり見ません。
日本人は放課後掃除をします。小学校のときから高校生までずっと掃除をしています。高校生になってからあまりやらなくなりましたかも。ハハハ...

D



【 正体カードD 】

私はドイツ人。男性だ。僕の服は民族衣装でレダールホーゼっていうんだ。オクトーバーフェストの時に見るだろう？
ドイツの人口の10人に1人がベジタリアンかビーガンなんだ。ベジタリアンの意味は分かるだろう？ビーガンというのは、ベジタリアンのうち、肉類に加え、卵や乳・チーズなど動物由来の食品を一切とらない人のこと。僕もビーガンだよ。僕の住んでいるドイツの首都ベルリンは400もの飲食店が素食メニューを導入していてビーガンが最も住みやすい街と言われているよ。僕は学校で掃除はしないよ。

C



【 正体カードC 】

私はUAE(アラブ首長国連邦)に住むアラブ人。女性よ、
私はイスラム教を信仰しているの。イスラム教の経典のコーランには神様の言葉が書いてあるの。ここに書いてあることは絶対に守らなければいけないの。例えば、豚肉は食べてはいけないこと、お酒を飲んではいけないこと、女性は車を運転することよ。
私たちは学校で掃除はしないけど、日本のように掃除を取り入れようとしている動きがあるわ。



草の根技術協カラー・ファビオ・デ・クリスト(LFC)にて [撮影：2018年度教師海外研修同行者]



独立行政法人国際協力機構
横浜センター（JICA横浜）

〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1

Tel : 045-663-3220 (直通)

Fax : 045-663-3265

E-mail : yictpp@jica.go.jp

<https://www.jica.go.jp/yokohama/>



